文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」

さが地方創生
人材育成・活用プロジェクト

平成29年度　事業報告書

平成30年3月

さが地方創生人材育成・活用推進協議会

国立大学法人　佐賀大学

◆　ご挨拶

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」会長
国立大学法人　佐賀大学　学長　宮﨑　耕治

地方消滅が、人口減少とその要因でもある東京一極集中に代表される人口移動により加速されようとしています。したがって、地方創生を推進するためには、出生率に関わり、労働人口でもある若年者層を地方に定着させることが不可欠です。このために佐賀大学は佐賀県のCOC大学として平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（通称COC＋事業）－さが地方創生人材育成・活用推進プロジェクト」の採択を受け、佐賀県内の西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部のCOC+参加校とともに地元就職率向上での貢献を目指しています。

平成27年度に、佐賀県及び10市10町の地方公共団体、経済団体、県内企業及びNPO法人など、本プロジェクトの意義をご理解頂いた各機関とともに「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を設置し、佐賀県の地方創生に必要な人材を輩出することで「産学官金言連携」による雇用の拡大と創出を目指す取組を推進してまいりました。

事業3年目となる平成29年度は、佐賀県内の企業・団体と学生・教員が交流する「さがを創る大交流会」を企画・実施しました。県内全域から153機関がブースを出展し、1,200名を超す学生が参加しました。特に低学年学生の参加が目立ち、卒業後に地域で活躍するキャリアに対する明確なビジョンを持つことが出来たことは、その後の学士課程教育への動機づけとして大いに意義があったと思われます。

平成30年は明治維新150年にあたる記念すべき年です。佐賀県は、日本の近代化を支えた多くの人材を輩出した県でもあります。本事業を含め、これからの地方創生を担う人材育成を、オール佐賀で進める中核大学として、教育・研究・社会貢献に、これまで以上に取り組んでまいります。

本報告書は、平成29年度の本事業の取り組み内容を取りまとめたものです。広く、地域社会に公開し、本事業へのさらなるご理解とご協力を賜りたいと存じます。

◆ ご挨拶

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業）
「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業実施責任者
国立大学法人　佐賀大学全学教育機構　教授　五十嵐　勉

佐賀大学は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（通称COC＋事業）：さが地方創生人材育成・活用推進プロジェクト」の採択を受け、佐賀県内の西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学のCOC+参加校、西九州大学短期学部のCOC+協力校とともに地元就職率向上での貢献を目指しています。地方創生を主導する佐賀県及び10市10町の地方公共団体、雇用の拡大と創出のために産業振興に取り組む佐賀県商工会議所連合会をはじめとする経済団体、県内企業及びNPO法人など、本プロジェクトの意義をご理解頂いた各機関とともに「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を設置し、佐賀県の地方創生に必要な人材を輩出することで「産学官金言連携」による雇用の拡大と創出を「オール佐賀」で目指したいと思います。

大学COC事業「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト（平成25年度採択）」において、本学は永原学園西九州大学と共同して、学生が地域（佐賀県内の6市1町）を学ぶ地域志向教育を進めてまいりました。その事業の多くは、地域課題解決型のPBL教育と言えるでしょう。その過程で、学生は地域「を」学びながら、結果的に、地域「に」学ぶ機会が多かったことが、現在のCOC＋事業を考える上で、重要であると思っています。地域を深く学び、地域社会の一員として、自分が地域に出来ること、自分が地域に支えられていること、地域社会での個人としての当事者意識。このような地域における自己の自覚こそが、地域で働き、暮らすための前提としての「シビック・プライド」や「地域アイデンティティ」の醸成に重要なことであると思っています。学生が「地域に学ぶ」とは、地域で学生を育てることの裏返しです。地方創生を担う人材育成は、私たち大学人の当然のミッションですが、地域社会（行政・産業界・市民団体等）が、今まで以上に、地域に必要な人材を皆で育てていくことも、地方創生にとって重要なのではないかと思っています。

オール佐賀での取り組みは、COC+大学の責任者として、極めて大きな責任を感じています。本事業におきましては、事業協働機関の関係者、そして何よりも本学のコーディネーター教員と多くの事務系スタッフの支えで、今年度の事業を、ほぼ計画通りに進めることができたと思っています。

今後の事業の本格的な展開におきましても、関係各位の協働で、「さがを創る人材育成」に取り組んでまいりたいと思います。今後とも、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

◆ 目次

Page	
01	◆ ご挨拶 「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」会長　宮﨑　耕治 「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業実施責任者　五十嵐　勉
04	◆ 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）
05	◆ さが地方創生人材育成・活用プロジェクト
06	◆ プロジェクト紹介
07	◆ 実施組織・体制
08	◆ 各プロジェクトの取り組み
40	◆ 広報
44	◆ 新聞記事
57	◆ 平成29年度　自己点検評価結果
59	◆ 参考資料
72	◆ 関連規則集
79	◆ 平成29年度さが地方創生人材育成・活用推進協議会関係者名簿

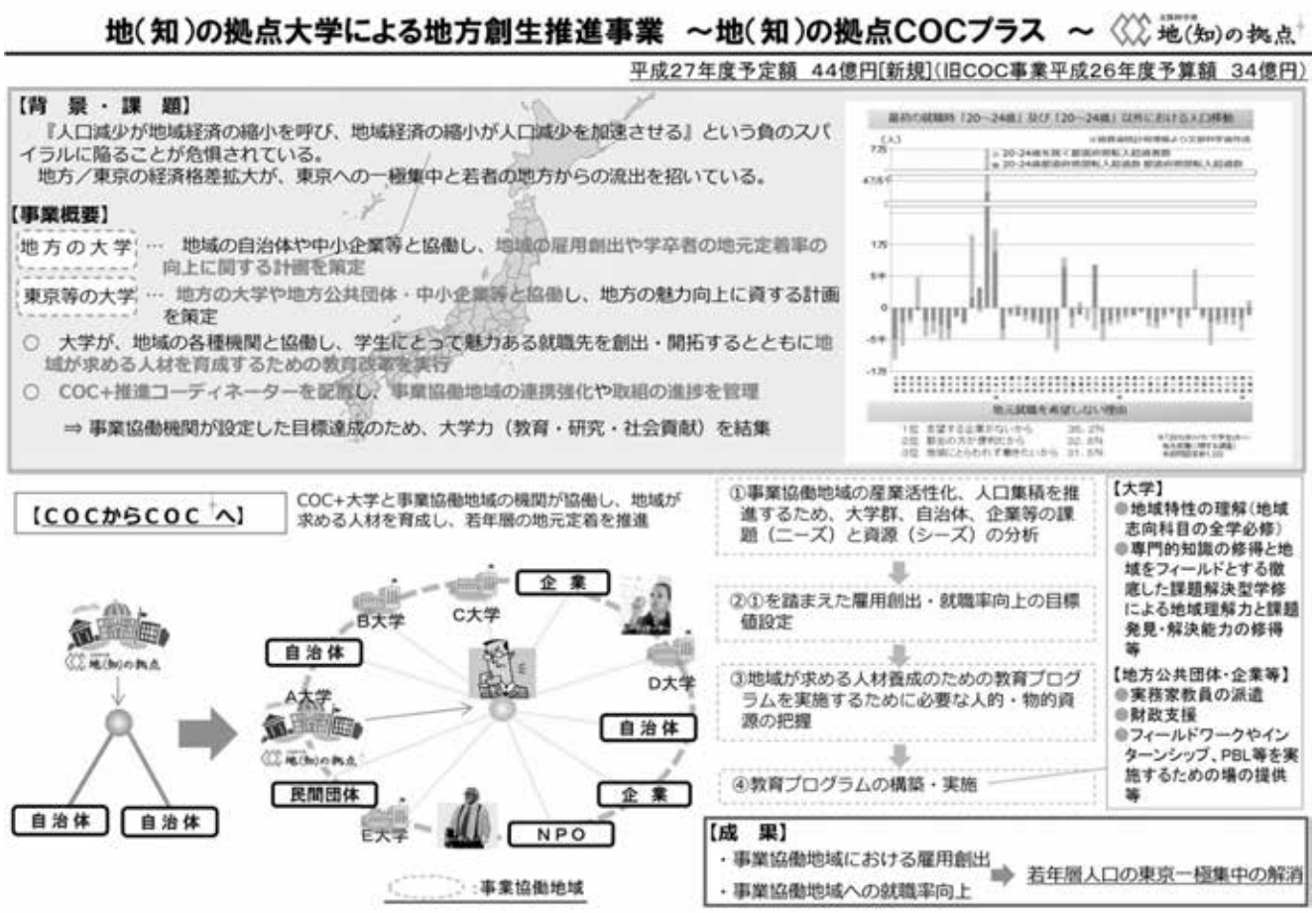
◆ 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

我が国が世界に先駆けて迎えている人口減少・超高齢化社会において、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』ことが危惧されており、これによって生じる地方と東京の経済格差拡大が、魅力ある職を求める我が国の人口を地方から東京圏へ流出させていると指摘されています。特に、このような人口流出は、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代に集中しています。このような人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するためには、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる魅力ある就業先や雇用の創出等に国と地方が一体となって取り組んでいくことが急務となっています。

平成25年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（大学COC*事業）」を発展させ、平成27年度より地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を文部科学省が支援し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

【平成27年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）より抜粋】

(*COC：Center of Community)



文部科学省「COC+事業の概要」
(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1356356.htm)

◆　さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

本事業は事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会*」において、大卒者の地元就職率向上と地域産業の振興による雇用の拡大・創出に協働して取り組む事業です。

（*「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」
COC+大学（佐賀大学）、COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部：平成29年7月追加加入）、地方公共団体（佐賀県、佐賀市・唐津市・鳥栖市・伊万里市・武雄市・小城市・神埼市・鹿島市・嬉野市・多久市、みやき町・白石町・ 有田町・基山町・吉野ヶ里町・太良町・江北町・上峰町・大町町・玄海町）、佐賀県市長会（佐賀市）佐賀県町村会（みやき町））、経済団体、企業及びNPO等で構成される）

佐賀大学ではこれまでの地域を志向した教育・研究・社会貢献の実績である地（知）の拠点整備事業（通称：大学COC事業）：コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトを基盤とし、教育改革や雇用の拡大創出に取り組んでいます。

教育改革

**地元志向教育（大学COC事業）から
地域志向キャリア教育へ**

- 地域志向型科目の全学必修化
  教養教育：インターフェース・プログラム（8単位）
- キャリア・地域志向型副専攻（平成30年度より順次実施）
- インターンシップを含む地域志向キャリア教育科目
- 創造型工系キャリア教育
- PBL、アクティブ・ラーニング、ラーニング・ポート・フォリオ
- 地元入学率の向上（高大接続教育）

雇用の拡大・創出

学部等の「強み」を生かした研究・社会貢献

- 農業の高度化と6次産業化
- セラミックス産業を担う人材育成
- 唐津コスメティック産業
- バイオマス産業
- IT（デジタルコンテンツ）産業事業
- 地域デザイン事業
- 地域労働市場分析事業
- 佐賀県における産学官包括連携協定事業
- 子ども発達支援士、障がい者就労支援士、社会福祉士

※地域を志向するキャリア教育の改革には、ラーニング・ポートフォリオに基づく自己管理・改善の学習記録の活用等により実行しています。

佐賀大学及びCOC+参加校は、それぞれの「強み」を活かした地方での雇用の拡大・創出に繋がる重点的かつ戦略的な研究・社会貢献プロジェクトを推進し、地域ニーズ対応型の戦略的研究の推進による雇用の拡大・創出に貢献し、学生の地元就職率の向上に努めています。

教育プログラム開発委員会の開催や事業協働地域におけるインターンシップ機能の強化、共同FD・SD研修、シンポジウム、地域を志向するキャリア教育のための特別講義等の企画と実践を推進しています。

事業協働機関との連携による学生と企業等とのマッチングイベント「さがを創る大交流会」を含む地方創生を担う人材の育成に向けた教育・研究・社会貢献も推進しています。

◆ プロジェクト紹介

平成29年度は、教育改革及び雇用の拡大・創出を達成するためにコーディネーターの活用を含む佐賀大学及び事業協働機関の推進体制の機能強化、地域を志向するキャリア教育のプログラム開発と実践、雇用の拡大・創出のための戦略的研究・社会貢献の推進を図ります。全学的な取り組みと連携の強化のために共同FD・SD研修及びシンポジウムを実施し、事業協働機関との連携による学生と企業等のマッチングイベント「さがを創る大交流会」を含む地方創生を担う人材の育成に向けた教育・研究・社会貢献を推進していきます。

A 佐賀大学及び事業協働機関全体

地方創生を担う人材育成のための推進体制の構築とその運営

事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」において、大卒者・短大卒者の地元就職率の向上と地域産業の振興による雇用の拡大・創出に協働で取り組みます。

B 佐賀大学全学教育機構（教養教育）

地域志向型キャリア教育のプログラム開発とその実施

「個人と社会との持続的発展を支える力」を培うインターフェースプログラムの地域志向化に取り組み、地元就職意欲の向上につながるキャリア教育を核とする教育改革を進めます。

C 佐賀大学芸術地域デザイン学部（H28.4開設）

地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成

地域ニーズ対応型の教育研究を行い、陶磁器関連企業等や地元自治体・関連諸団体と協働し、「やきものイノベーション」の創出と地域の活性化・再生に寄与できる人材の育成を推進します。

D 佐賀大学教育学部（H28.4開設）

子どもの発達支援士育成（COC+参加校との連携）

佐賀県5大学の取り組みである「子ども発達支援士養成プログラム」を見直し、向上させつつ、さらにその資格を用いて、地元の就職につなげていくことを目的としています。

E 佐賀大学経済学部

産業界との連携による実践的地域志向キャリア教育及び地域労働市場の実態調査分析

地域労働市場実態調査、県内企業経営者による講義、県内企業における単位制インターンシップの実施を通して県内企業間の相互理解向上と学生の社会人基礎力の獲得を図ります。

F 佐賀大学医学部

障がい者就労支援士の養成

佐賀地域における障がい支援の実状について学び、学生が将来希望する職域において生活・就労支援できる基礎的能力を養い、対象となる方の治療継続と生活の質の向上による共生社会構築に貢献することを目的としています。

G 佐賀大学理工学部

産業界との連携による創造型工系キャリア教育による人材育成

企業セミナーやインターンシップの実施、地域に即したものづくりや地元企業との共同研究、地域環境志向型まちづくりを通じて学生の社会力養成を図ります。

H 佐賀大学農学部

農業のIT化と6次産業化を担う人材育成

佐賀の豊富な農林水産業に基づいて，新産業の創出と高度化に取り組み，６次産業化の人材育成と地元雇用の創出を目指します。

I 佐賀大学キャリアセンター・アドミッションセンター

地元就職率向上のための支援と高大連携による地元入学率の向上

大学の教育・研究に触れ高校生に大学に対する理解を深めてもらう取り組みや学生に県内企業の情報発信、インターンシップ合同説明会など、地元就職を希望する学生とのマッチングを推進します。

J 西九州大学

地域志向キャリア教育の改善（PBL化等）・中長期実践型を含むインターンシップの高度化

大学COC事業で培った成果を事業協働地域への学生就業へと発展させ、実社会に通じる実践力や佐賀に対するシビックプライドを育成し、「さがの未来を創る」人材育成を進めていきます。

K 九州龍谷短期大学

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

授業や演習で学んだ知識や技能を実践の場で活かす力を身につけ、「個人と社会との持続的発展を支える力」を培うことを目的としながら地元就職意欲の向上につながる教育改革を進めていきます。

L 佐賀女子短期大学

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

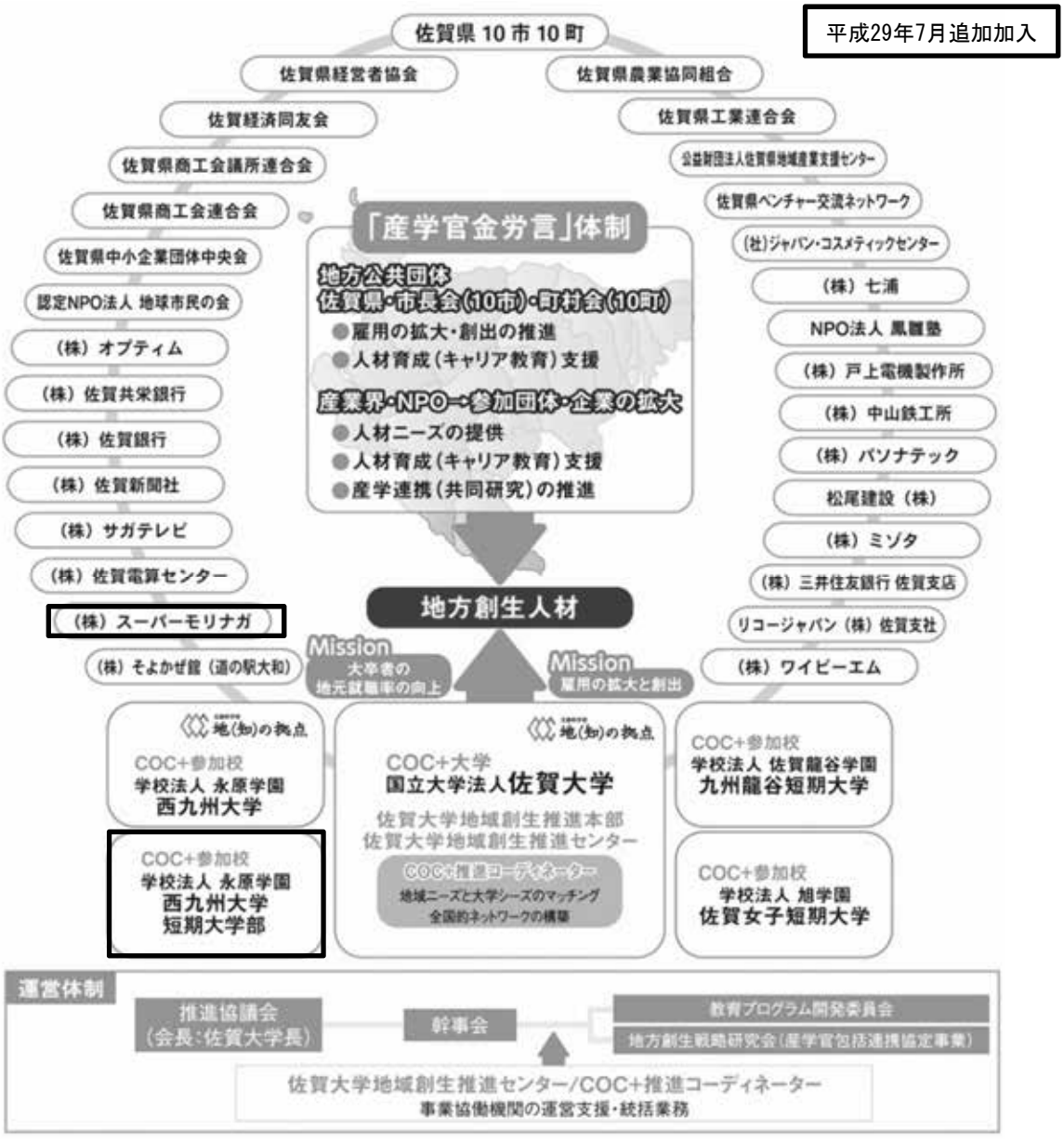
地域と連携した特別の教育プログラムを開講し、学生の学びの場、地元理解を柱とした教育改革を推進しています。

◆ 実施組織・体制

さが地方創生人材育成・活用推進協議会

地方創生を担う人材の育成と活用を推進するために佐賀県内の大学・短大と地方公共団体、産業界・NPOなどが連携した「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を平成28年2月に設置しました。

佐賀大学学長を協議会会長とし、年に1回の総会において事業全体の進捗状況に関する自己点検・外部評価の結果を踏まえながら、点検と改善を進めています。また、協議会内には実務者からなる「幹事会」や大学・短大の事業責任者からなる「教育プログラム開発委員会」が設置されており、事業協働機関加盟団体や企業等との連携強化や大学・短大によるキャリア教育の強化を中心とする教育プログラムの企画の推進が行われています。幹事会には平成29年度よりインターンシップ推進専門委員会も設置され、県内のインターンシップを協働して推進していくことが決まりました。さらに、佐賀大学における産学官包括連携協定事業（略称：6者協定事業）でもある「佐賀地方創生戦略研究会」と連携し、県内における雇用の創出・拡大に関わる地方創生総合戦略との連携を図っています。教育プログラム開発委員会内には、インターンシップワーキンググループ（WG）及び大学間連携事業として実施してきた「子ども発達支援士養成プログラム」の継続的展開を企画するための子ども発達支援士養成WGを設置し、事業を進めています。これらの事業は、佐賀大学に設置した「地域創生推進センター」が事務局となり、大学COC事業推進部門とCOC+事業推進部門を運営委員会で業務統括をし、佐賀大学学長をトップとする佐賀大学地域創生推進実施本部により全学的な取り組みを進めています。



◆ 各プロジェクトの取り組み

プロジェクト

A

地方創生を担う人材育成のための推進体制の構築とその運営

事業実施主体：佐賀大学及び事業協働機関全体

ホームページ

● 平成29年度の取り組み

佐賀大学での全学的な取り組みを強化するために佐賀大学地域創生推進実施本部会議、地域創生推進センター運営委員会、COC+事業推進部門会議を3回開催し、今年度の計画の着実な実施に向けた取り組みについて協議を行いました。また、協議会内の実務者からなる幹事会を5回開催し、方針を検討しました。

また、平成28年度の就職に関するデータを基に各学部・学科における地元就職について分析を行いました。県内の主な就職先は公務員や団体が多く、民間企業が少ないことが浮き彫りとなりました。一方で、学生への情報が少ないことが課題として上げられており、「さがを創る大交流会」や「佐賀版キャリアデザイン」等の実施によりその改善を図りました。

また、9月に事業協働機関アンケートを実施し、平成28年度の事業実施に関する満足度調査を行いました。ほとんどの機関が「大いに満足している」、「ほぼ満足している」を選択しており、連携の強化が見られました。（次ページに結果を掲載しています。）

幹事会

COC+事業推進部門会議

■ 教育

地域を志向するキャリア教育の推進に関する取り組みとして教育プログラム開発委員会を3回、教育プログラム開発委員会内に設置しているインターンシップWGを8回開催し、大学間において誓約書、評価シート等のインターンシップに関する共通書類を作成し来年度の実用に向けて動き始めました。また、11月に開催したマッチングイベント「2017さがを創る大交流会」の出展機関へインターンシップ受入の有無について聞き取りを行いました。出展した153機関中98機関がインターンシップの受入を希望しており、その中でも59機関が佐賀県産業人材確保プロジェクト事業が運営している「さが就活ナビ」のサイトへの記載やインターンシップを実施していないことが判明しました。参加校と連携してアプローチをしていくことも決定し、インターンシップ導入マニュアルを作成しました。また、受入先へのアンケートを2月に実施し、インターンシップ受入先の量的な拡大を図っています。

教育プログラム開発委員会

インターンシップWG

「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業協働機関アンケート

■ 調査期間：平成29年9月4日～9月22日
■ 調査方法：メールにて回答　　回収率：75%

【企業・経済団体】※平成28年度の満足度をご回答下さい。（全項目共通：資料A-1,A-2）	4大いに満足している	3ほぼ満足している	2あまり満足していない	1満足していない
1)大学による企業・経済団体のニーズの把握	11%	36%	18%	4%
2)大学による技術相談・経営相談等への対応【資料B-1、B-2】	4%	54%	11%	0%
3)大学との共同研究・受託研究等の産学官連携の推進【資料C-1、C-2】	11%	50%	7%	0%
4)就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供【資料D】	11%	39%	18%	0%
5)学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数【資料E】	4%	39%	25%	0%
6)事業協働機関の運営一般	4%	54%	11%	0%
7)HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報【資料F】	14%	36%	18%	0%
8)全体的な満足度（上記、1～7から判断して）	4%	57%	4%	4%

（その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います）

・弊社人事が昨年11月に佐賀大学キャリアセンターの2階会議室をお借りしてキャリアセミナーをさせていただいており、4名ほどご参加いただきました。資料Dに掲載されているのはCOC＋関連で開催されたキャリアセミナーだと思いますが、弊社人事が開催したセミナーとの違いはございますか？今後の参考にさせていただきたく、ご教授いただければ幸いです。

・H28年度は企業紹介の機会も多く頂き、研究事業も連携させて頂きました。また、H29年の採用活動においても、佐賀大学学生の応募及び内定者が昨年に比べ増加し、今回の活動が結果に結びついたものと推測します。今後もこの事業の継続を希望します。

・学生の真の考えは何なのか。佐賀を魅力ある県として認知してもらうための活動となっているのか。企画サイドとしては常に自問自答が求められる。企業としても、学生を単に従業員や労働力のコマとして見るのではなくて、学生を経営者の夢をかなえるバディな関係を築く仲間として想像できているのだろうか。経営者の真の考えもつかむ必要がある。

・大学との共同研究は、ベンチャー企業活動の一助として機能している。今後も企業成長の糧として大学との連携は不可欠。そのためにも、大学の情報を企業に提供出来るインフラを整備し、学生と企業との双方向のコミュニケーションを充実させていきたい。お互いを知ることが必要であることは間違いのない事実。大学とも連携して、学生に対する魅力ある経営者の情報発信を継続する。

・グローバルとかローカルとの表現を良く聞くが、佐賀での事業活動も外国から見ればグローバルである。東京とか外国に行かずとも佐賀でグローバルな仕事は出来るものと考える。

・引続き協議会の活動内容、各種取組に関して理解を深め、弊行も事業協働機関の一員として鋭意協力させて頂きます。

【地方公共団体（県・市・町）】※平成28年度の満足度をご回答下さい。（全項目共通：資料A-1,A-2）	4大いに満足している	3ほぼ満足している	2あまり満足していない	1満足していない
1)大学による自治体のニーズの把握	0%	62%	14%	5%
2)大学による県・市町における地方創生事業（まち・ひと・しごと総合戦略等）との連携【資料B-1、B-2】	5%	62%	14%	0%
3)大学との共同研究・受託研究等の産学官連携の推進【資料C-1、C-2】	5%	52%	19%	0%
4)就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供【資料D】	10%	62%	10%	0%
5)学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数【資料E】	5%	33%	38%	0%
6)事業協働機関の運営一般	0%	62%	14%	0%
7)HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報【資料F】	10%	62%	5%	0%
8)全体的な満足度（上記、1～7から判断して）	5%	62%	14%	0%

（その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います）

・取り組みできる具体的なメニュー等があれば、もっと要望や希望が出せるかもしれません。

【NPO団体】※平成28年度の満足度をご回答下さい。（全項目共通：資料A-1,A-2）	4大いに満足している	3ほぼ満足している	2あまり満足していない	1満足していない
1)大学によるNPO団体のニーズの把握	0%	100%	0%	0%
2)就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供【資料D】	0%	100%	0%	0%
3)学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数【資料E】	50%	50%	0%	0%
4)事業協働機関の運営一般	0%	100%	0%	0%
5)HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報【資料F】	0%	50%	50%	0%
6)全体的な満足度（上記、1～5から判断して）	0%	100%	0%	0%

（その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います）

■ 雇用の拡大・創出

昨年同様、地元就職率の向上への取り組みとして県内企業43社を訪問、40社の来訪を受け、技術・経営相談への対応、共同研究、インターンシップの受入れなどに関する情報交換を行いました。さらに佐賀大学内で連携し「教員向け県内企業見学会」、「産学連携技術講演会」を実施しました。これらの活動により企業との関係性が向上し、企業側からの相談件数が昨年度の27件から60件に増加、技術相談から産学共同研究候補となるテーマが4件ありました。

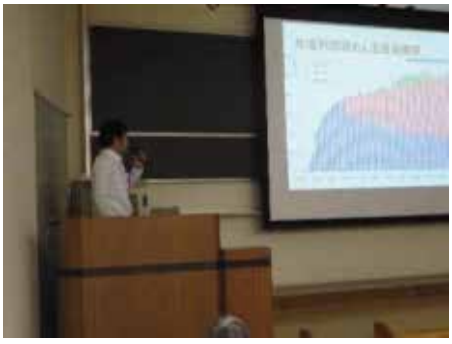
「教員向け県内企業見学会」

日付	見学先
9月 8日（金） 参加人数：20名	宮島醤油（株） 唐津プレシジョン（株） （株）かわでん
1月24日（水） 参加人数：16名	共立エレックス（株） 大同メタル佐賀（株）

教員向け県内企業見学会

「産学連携技術講演会」

日付	講演者
6月21日（水） 参加人数：46名 （企業21、大学25）	●技術講演会 「産業用ロボットのトピックス」　理工学部　佐藤和也 教授 「新材料・複合材料について」　理工学部　冨永昌人 教授 「有明海粘土層地盤の強度評価について」理工学部　根上武仁 講師 ●「今後必要と思われる技術テーマ」の紹介 1）サンポー食品(株)　、2）(株)東洋空機製作所、 3）(株)えこびと農園
11月27日（月） 参加人数：30名 （企業12、大学18）	●技術講演会 「国際ロボット展の見どころ」　理工学部　泉清高 准教授 「ロボメカ：デザインコンペ」　理工学部　林喜章 助教 「オゾンの効果的な利用法　」　理工学部　三沢達也 助教 ●「今後必要と思われる技術テーマ」の紹介 1）佐賀鋳物(株)、2）(株)九検、3）吉田刃物(株)



産学連携技術講演会

■ 全体の取り組み

□ 「さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会」

さが地方創生人材育成・活用推進協議会で協働する大学、自治体、企業・団体等が集まり、今年度のCOC+に関する実施計画について協議しました。佐賀県内の雇用状況及び雇用の拡大・創出、インターンシップの推進、事業協働機関の連携について意見交換を行い、自治体・企業の協働体制を強化しました。

また、事業協働機関へ株式会社スーパーモリナガの追加及び西九州大学短期大学部の協力校から参加校への変更が提案され承認されました。

さらに、幹事会内にインターンシップ推進専門委員会を設置することが承認されました。

➢ 日時

平成29年7月11日(火)　13：30～15：00

➢ 場所

佐賀大学　大学会館2階多目的ホール

➢ プログラム

1　開会の挨拶

2　議事

（協議事項）

・事業協働機関の追加について
・平成28年度の事業報告について
・平成29年度の事業計画について
・その他

（デイスカッション）

・県内の雇用状況及び雇用の拡大・創出について
・インターンシップの推進について
・事業協働機関の連携について

（報告事項）

・幹事会実施報告
・教育プログラム開発委員会実施報告
・地方創生戦略研究会実施報告
・平成29年度　さがを創る大交流会　出展説明会

3　閉会の挨拶

宮﨑協議会会長の挨拶

総会の様子

雇用拡大・創出に向けたディスカッション

雇用拡大・創出に向けたディスカッション

□ COC・COC＋共同シンポジム「地域を志向する教育と地域を担う人材の育成」

COC・COC+共同でシンポジウム「地域を志向する教育と地域を担う人材の育成」を佐賀大学にて開催しました。

岩手大学より講師をお招きし、岩手における多様なインターンシップについて講演頂きました。また、佐賀県内4大学の学生が自身のインターンシップ体験について働くことの意義やインターンシップの積極的な参加の重要性について報告して頂きました。

パネルディスカッションではパネリストよりそれぞれが取り組んでいるインターンシップについて報告頂きました。交通安全ヒーローでお馴染みのかめライダーに扮した南福岡自動車学校の江上喜朗社長に会場を盛り上げて頂きました。江上社長はインターンシップを「楽しく」、「熱く」、「企業をあげて取り組む」ことで自社の変化にもつながったと報告されました。

当日は約115名に参加頂き、事例発表を通して職業統合的学習（WIL）について学びました。

シンポジウムチラシ

- 日時
  平成29年10月14日（土）　13：00～17：20

- 場所
  佐賀大学　教養教育大講義室

- プログラム
  13：00～　開会挨拶　宮﨑耕治（佐賀大学　学長）
  13：10～　趣旨説明　五十嵐勉（佐賀大学 全学教育機構 教授）
  13：30～　基調講演
  「ふるさといわて創造プロジェクトの取組み
  -地域のファンを増やす、いわての多様なインターンシップ-」
  講師：船場ひさお　（国立大学法人岩手大学 COC推進室・特任准教授）
  14：40～　事例発表
  「大学COC・COC＋事業の学びの成果
  ～地域志向型教育やインターンシップ等を含めた職業統合型学習から学んだこと～」
  「境界で学ぶ」佐賀大学4年 江﨑史浩
  「インターンシップを通して学んだこと」西九州大学3年 澁谷茉希
  「わたしのチャレンジ」佐賀女子短期大学2年 大島智未
  「インターンシップを通して」九州龍谷短期大学2年 坂口麻衣
  15：40～　パネルディスカッション
  「職業統合的学習の推進と課題～地域に“学び”地域で“働く”～」
  座　　長：井本浩之（西九州大学　副学長）
  コメンテーター：船場ひさお（国立大学法人岩手大学 COC推進室・特任准教授）
  パネリスト：近藤英心（佐賀県総務部人事課企画・人材担当係長）
  江上喜朗（南福岡自動車学校　代表取締役社長）
  稲田諭（特定非営利活動法人Succa Senca　CIO/SAGA食べる通信 副編集長）
  小嶋紀博（国立大学法人佐賀大学 地域創生推進センター 特任講師）
  佐賀大学・西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学 学生各1名

シンポジウムの様子

岩手大学COC推進室・特任准教授の
船場ひさお氏による基調講演

事例発表者

パネルディスカッションの様子

宮﨑学長の挨拶

講演の様子

事例発表

パネルディスカッション

情報交換会

□ 2017さがを創る大交流会

佐賀県内企業・自治体・NPO・団体等と県内全域の大学生とのマッチングを図るために「2017さがを創る大交流会」を佐賀県総合体育館大競技場にて実施しました。今回は前年度より規模を拡大し、出展機関153機関（155ブース）、学生1,242名が参加、交流を行いました。本交流会が大卒者の地元就職の推進、地域産業の振興による雇用の拡大と創出に有効な手段であることが確認されました。また、出展機関及び参加学生にアンケートを実施し、本交流会の成果を確認するとともに次年度以降の開催に向けての課題の把握を行いました。（アンケートの一部を本報告書の参考資料に掲載しています。）

- 日時
  平成29年11月23日（木・祝）　13：00～16：30

- 場所
  佐賀県総合体育館大競技場

- プログラム
  12：00～12：30　出展者事前セミナー
  12：40～13：00　開会式（参加学生を除く）
  13：00～16：30　交流会
  13：00～16：30　イベント（併設開催）
  　　メイクアップ講座、スーツ選び講座、マナー講座、俺の就活体験記、ミニ講演会、インターンシップ相談会、サガスト発表会、学生企画コーナー
  16：30　　閉会（閉会のアナウンス）

2017さがを創る大交流会チラシ

開会式では宮﨑協議会会長の挨拶の後、なんと！時空を超えて佐賀の八賢人、大隈重信公が登場し出展者全員で「佐賀さいこう！」の掛け声とともに会場を盛り上げました。

当日は参加学生約1,200名、一般参加者・出展機関参加者を合わせて1,600名を超える来場者があり、会場はたくさんの人で溢れかえっていました。

また、今回は学生の入場確認を株式会社オプティムと佐賀大学生が共同開発した「サガしる」を利用し、ブースのQRコードを読み取ってスタンプを集める「スタンプラリー」など、参加学生が楽しみながらブースを回れる企画なども実施しました。後日、厳正な抽選の結果183名の学生に景品が当選しました。

出展機関からは「良いPRができました。来年も開催を期待しています。」、「非常に活気のあるイベントでした。来期も継続して頂きたいと思います。」といった声を頂きました。

また、学生からは、「実際に話を聞かないとわからないことが多く、とても参考になりました。１年生なので、来年も来てみたいと思いました。」、「佐賀県での就職はあまり考えていませんでしたが、今回たくさんの佐賀の企業が努力とアピールをしているところを見て、佐賀での就職が一番故郷へ貢献できると思いました。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。」など学生にとっても出展機関にとっても実りある交流会となりました。

開会式の様子

出展者全員で「佐賀さいこう！」

会場の様子

出展ブースの様子

Pick up

「2017さがを創る大交流会　出展者事前説明会」

7月11日（火）に出展機関の募集に向け、交流会の趣旨、概要、ブース仕様、募集数等の事前説明会を実施しました。当日は103機関、119名の方にご参加頂きました。

イベントブース

さがを創る大交流会ではイベントブースを設け、学生へ向けた様々なイベントを開催しました。

「メイクアップ講座」では社会人メイクの方法をセミナー形式で学び、就職活動や新社会人になった際に役立つメイク術を身に付けてもらおうと、参加大学生をモデルにメイクを行いました。

「「俺」の就活体験記」では、大学生へ就活への準備意識を高めてもらおうと、就職活動が終わった学生に就職活動での奮闘記を発表するイベントも行われました。

株式会社ミズによるメイクアップ講座

「俺」の就活体験記

ミニ講演会
～考えてみよう！佐賀で働く、佐賀で暮らす～

キャリア相談・インターシップ相談

マナー講座ではNPO法人鳳雛塾の大島先生に「一瞬の出会いがチャンスに変わる　印象マナー講座」を行って頂きました。おじぎや表情の作り方などのポイントを聞き、さっそく学生が実践していました。

「スーツ選び講座」では、身だしなみの基本であるスーツやネクタイの選び方を学び、就職活動や新社会人になった際に役立つ身だしなみのマナーを中心にセミナー形式で行いました。

学生による企画では県内企業へ取材をし、まとめた「サガスト！」発表会や佐賀にちなんだクイズで魅力を知る「佐賀クイズ」などを行いました。

マナー講座

洋服の青山によるスーツ選び講座

サガスト！

佐賀クイズ

2017さがを創る大交流会の様子

宮﨑協議会会長による開会挨拶

五十嵐実行委員長による趣旨説明

QRコードを使った出席確認

QRコードを使った出席確認

ゆるキャラたちも参加

NPOの出展ブース

企業出展ブース

トビタテ！留学JAPANブース

出席管理システム「サガしる」の開発

今回、交流会に参加する学生の出席管理システム「サガしる」を佐賀大学で実施しているインターフェース科目『2年間でできる「がばいベンチャー」』内で株式会社オプティムのスタッフと共に学生が作成しました。このシステムは出席管理だけではなく出展ブースを訪問した際にブースに貼ってあるQRコードを読み込むことでスタンプを獲得することができ、訪問したブースの記録となります。集めたスタンプは出展機関提供の景品が抽選で当たる応募券となります。

『2年間でできる「がばいベンチャー」』Ⅲ、Ⅳは約40名が受講しており、ユースケース図やWBS（Work Breakdown Structure）、プログラミングや画面のデザインについて学び、システムを完成させました。

システム画面のデザインは芸術地域デザイン学部の学生が担当し、「サガしる」という名前も受講した学生の多数決で決定しました。さらに、開発したシステムの不具合や修正方法について学び、最終日には会場となる佐賀県総合体育館で動作テストを実施しました。会場では、受講生約40 名が一斉にシステムを起動させ、データ入力を行いました。また、会場内の様々な場所で起動し、不具合がないかチェックしました。

イベント当日は大きな問題もなく、運営側も参加学生の状況を詳しく知ることができ、効率的に作業を行うことができました。開発に関わった学生からも「自分が携わったものをみんなが使っているのが嬉しかった。」と喜びの声を聴くことができました。

授業の様子

開発メンバー

システム動作確認

2017さがを創る大交流会　実行委員会

平成29年3月9月「2017さがを創る大交流会」実行委員会のキックオフ会議があり、開催へ向けて実行委員会が動き出しました。佐賀大学、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、佐賀県で構成された22名の実行委員で、毎月1回運営について協議を行いました。

また、各大学の学生も委員会に参加し、学生ならではのイベントブースの企画を行いました。

当日は、佐賀の未来について語る「しゃべり場」や「さが県の地域ブランディング」の発表など、たくさんの学生の参加があり盛り上がりました。

キックオフ会議

学生も参加し実行委員会開催

実行委員メンバー

留学生のためのブースツアー

今回の交流会では留学生採用可能と表明している企業が32社ありました。表明されたブースには「グローバルマーク」を付け、留学生が認識できるようにしました。

また、留学生と地域企業との交流促進のために佐賀大学の国際課が中心となり『留学生のためのブースツアー』を実施しました。チラシや会場マップを英語表記にしたり、佐賀大学生のコンシェルジュがガイドし、留学生採用可能企業を回りました。

ブースツアーの打合せの様子

ピンクのジャンパーのコンシェルジュと一緒に留学生が企業をまわりました

留学生用チラシ表

留学生用チラシ裏

留学生用MAP

□ COC・COC+FD・SD研修会　インターンシップと産学官連携～量的拡大・質的充実に向けての可能性～

2月22日（木）にCOC事業と共同開催のFD・SD研修会「インターンシップと産学官連携 ～量的拡大・質的充実に向けての可能性～」を開催しました。経済団体から講師をお招きし、産学が連携したインターンシップの好事例を報告頂きました。また、教員と学生、受入機関の3者でプログラムについて意見交換をするグループワークを実施し、地域における人材確保の観点から、産学官が連携した正課インターンシップの取組みの課題と可能性について議論を深めました。当日は、大学教職員、企業、学生合わせて71名に参加頂きました。

FD・SD研修会チラシ

- 日時
  平成30年2月22日(木)　13：30～16：50

- 場所
  佐賀大学　本庄キャンパス　大学会館2階多目的ホール

- プログラム

13：30	開会
13：40 ～ 14：40	第1部　基調講演 「産学官連携による正課インターンシップの課題と可能性」 講師　古賀　正博　（福岡中小企業経営者協会　常務理事）
15：00 ～ 16：30	第2部 グループワーク 「正課インターンシップをどう推進していくか～ プログラムを企画・立案してみよう～ 」 ファシリテーター：濱本　伸司　（一般社団法人フミダス代表理事）
16：50	閉会

第1部の基調講演は「産学官連携による正課インターンシップの課題と可能性」をテーマに、一般社団法人福岡中小企業経営者協会常務理事の古賀正博氏に講演頂きました。中小企業等は人材確保が難しい現状がありますが、これら企業が地域の人材育成に積極的に関わることが重要で、結果的にはこの活動が人材確保につながると話されました。人材育成としての社会連携教育の具体例として、実践型インターンシップや企業取材PBL（キャリアスクーププロジェクト）、その他のさまざまな社会連携キャリアセミナーを紹介。また、正課インターンシップとしては、大学教員の本気度が重要であることや、インターンシップの研修プログラムは「学内にも学外にもなく共に創る（探す）時代」であり、学生教育に適したプログラムを一緒に創り出す必要があると説明されました。

FD・SD研修会の様子

古賀 正博氏の基調講演

第2部ではファシリテーターに一般社団法人フミダス代表理事の濱本伸司氏を迎え、「正課インターンシップをどう推進していくか～プログラムを企画・立案してみよう～」をテーマにグループワークを行いました。はじめにワークショップの趣旨と目的の説明があり、各グループで5日間の正課インターンシッププログラムを作成しました。グループワーク後の発表では、農家との交流を通した外国人技能実習生と農家の連携の応援や、専門分野に合わせたプログラムの提供など、さまざまなプログラムが提案されました。

アンケートでは、参加した企業の方や教職員、学生から「三者（企業・学生・大学）の意見交換ができたことで、それぞれの視点にかなう活動が出来そう」や「受け入れ先企業、学生とプログラムを創ることができたのは良かった。双方の意見を聞くことができる貴重な経験だった」「ここまでインターンシップのことを考えたことがなかったが、企業の方も良く考えて学生に機会をくださっていることがわかって、今からでもインターンシップに行ける所に行きたいと思った」という意見が聞かれ、本研修会への参加が正課インターンシッププログラムに対する理解促進につながりました。

一般社団法人 フミダス代表理事
濱本 伸司氏

グループワークの様子

グループワークの様子

グループワーク発表の様子

「インターンシップ・就職活動」を経験した学生の声

園田　彩織
佐賀大学
経済学部経済法学科2年

インターンシップ先
株式会社Aコープ佐賀
ミート事業部

- 業種
  総合職
- 参加時期：
  8月22日～26日
  5日間
- 内容
  業務全般

「インターンシップで学んだこと」

私は、5日間、食品加工会社において工場や店舗での見学や補助作業を体験し、そして、販売促進に向けた企画立案を行い発表しました。これは経済学部「実践インターンシップ」という正課科目です。実習前半は、工場での補助作業に従事し、また、直販店、スーパー、レストランなど出荷先への見学を行うなど主に事業内容について学びました。後半では、直営店での販売促進案を既存データや資料に基づき分析をし、パワーポイントにまとめ発表しました。
発表では、不十分である点、改善点などありましたが、会社の方からは、「思っていたより良かった」とのお褒めの言葉もいただきました。

私は、この実習で働くことの意味や職場の雰囲気、また、発表では多角的なモノの見方を学びました。

椛島　千晶
佐賀大学
理工学部都市工学科3年

インターンシップ先
松尾建設株式会社

- 業種
  建築施工管理
- 参加時期：
  8月28日～9月1日
  5日間
- 内容
  業務全般

「インターンシップでの成果」

私は、理工学部の正課科目「地方創生インターンシップⅠ」において総合建設会社に5日間の実習を行い、実際の現場における雰囲気や監督の仕事について学ぶことができました。

現場監督の仕事は、工程表や図面の作成はもちろんですが、職人の方だけでなく設計事務所の方など多くの人と関わる仕事があるため、コミュニケーション能力がとても大切であることを痛感しました。大学の授業では、建物の設計や、コンクリートについて学んでいましたが、実際に建物がどのような工程で建てられているかに触れ、特に今回の現場は、PC造であり佐賀には１つしかないということで大変貴重な体験となりました。

馬原　陽
西九州大学健康栄養学部
健康栄養学科2年

インターンシップ先
吉野ヶ里あいちゃん農園

- 業種
  農業
- 参加時期：
  8月25日～8月31日
  7日間
- 内容
  種植え、収穫、出荷作業、
  レストランでの接客

「インターシップを通して」

私がインターシップに参加した理由は、本格的な農業体験をしたかったことと、将来栄養士・管理栄養士になった時のために食材をたくさん知りたかったこと、栄養教諭となった際、農家の苦労や大変さをしっていることで、子どもたちへの食指導をより深く出来るのではないかと考えたからです。

一週間を通して学んだことは、農業の大変さ、現在の日本の農業の問題点、レストランでの野菜の活かし方などです。インターシップ期間が真夏でとても大変でしたが、農家の方たちは365日されているので、すごいなと思いました。また、レストランのメニューを見て、「こうしたらいいんじゃないか」と自分なりにメニューを考える事がとても楽しく、将来私もお店を持てたらなと夢が膨らみました。

本山　萌衣
西九州大学子ども学部
心理カウンセリング学科3年

インターンシップ先
株式会社ミズ

- 業種
  調剤薬局
- 参加時期：
  8月19日～11月23日
  6日間
- 内容
  企業の取材、記事の作成

「サガスト！を通して学んだこと」

私がこのインターンシップに参加したきっかけは何か実践的なことから学びを得たいと思っていたからです。

また、自身の文章力を高めたいとの思いから参加を決意しました。このインターンシップに参加して働くということはその会社の夢を仲間とともに追い求めることなのだと学びました。今まで働くことに対してマイナスイメージが強かった私にとってこの学びは大きなものとなりました。

このインターンシップをきっかけに今まで漠然としていた将来に対して、自分は将来どうしたいのかと真剣に考えるようになりました。今私は人生に岐路に立っていますが、このインターンシップで学んだことを胸に自分自身と向き合って選択、決断していきたいです。

堀　琴美
九州龍谷短期大学
人間コミュニティ学科
映像・放送コース2年

インターンシップ先
株式会社CRCCメディア

- 業種
  ケーブルテレビ局
- 参加時期：
  8月29日～9月9日
  10日間
- 内容
  番組制作補助、スケジュール制作、映像作品の制作

「インターンシップを振り返って」

最初は学校での単位が取れるから、という理由でインターンシップに行きました。

選んだ場所は学校で実習に行ったところと同じで、知っている方が多いほうが10日間のインターンシップをお願いしやすいと思ったので、実習と同じところにしました。

仕事の大変さを学びました。実際に働いている方から現場の声を聴いて、改めて大変さに気づかされました。私が行ったところはケーブルテレビ局で、少ない人でいろいろな仕事をこなしていかなければならなかったため、とてもたいへんそうでした。

また、取材でいろいろな人と話す機会が多かったので話す力、聞く力も必要だなと感じました。

聞く力と話す力は選考や面接のときに役立ったと思います。グループディスカッションを行うときや面接官と話すときなど物怖じせずに話すことができたと思います。

武藤　杏実
九州龍谷短期大学
人間コミュニティ学科
映像・放送コース2年

インターンシップ先
株式会社とっぺん

- 業種
  文化財・ＩＣＴ事業
- 参加時期：
  8月22日～9月2日
  10日間
- 内容
  撮影の補助や編集、スライドショーや地図の作成など

「インターンシップを振り返って」

インターンシップ自体を行おうと思ったきっかけは単位取得の一部だったからですが、インターンシップ先を知ったのは、学校の先生の紹介がきっかけでした。

夏休みからアルバイトに入る予定でその時間が短くなるのも申し訳なく、またその会社が映像系の仕事も扱っており仕事内容にも興味があったので、インターンシップも含めお世話になりました。

私は昨年の活動を通して、詳しい仕事内容や雰囲気など、その会社について深く学ぶことができました。初日から撮影に同行させていただき、現場での動き方や雰囲気などを肌で感じました。

また、私はインターンシップ先に就職することが決まっているので、結果的にインターンシップに行って関係を持っておくことが役立ち就職に繋がりました。

組脇　えりか
佐賀女子短期大学
こども未来学科
こども保育コース2年

インターンシップ先
保育園ひなた村自然塾

- 業種
  保育
- 参加時期：
  9月
  3日間
- 内容
  保育

「インターンシップで見つかった理想の職場」

私は熊本の自宅から電車を乗り継ぎ、片道２時間以上かけて通学しています。卒業後は熊本で保育士になるつもりでした。

私の理想は、自然豊かな環境の中で子どもが伸び伸びと遊びの中で育つ保育です。夏に佐賀で開催された保育園見学バスツアーに参加し、佐賀市大和町の保育園ひなた村自然塾を知り、その後インターンシップ（自主実習）で実際にこの園での保育を体験しました。子どもたちの生き生きとした表情と園の保育方針に惹かれ、佐賀での就職を決断し、４月からこの園で保育士として採用していただくことになりました。

初めての一人暮らしは不安もありますが、保育だけではなく短大で携わっていたボランティア活動も継続し、地域に貢献できる社会人になりたいと思います。

武藤　真穂
佐賀女子短期大学
健康福祉学科
介護福祉専攻2年

インターンシップ先
長光園障害者支援センター

- 業種
  医療・介護
- 参加時期：
  1年後期（2～3月）
  4週間
- 内容
  介護支援業務

**「ターニングポイントとなった
インターンシップ」**

私の進路選択に向けてのターニングポイントとなったインターンシップは、１年後期に行った障害者施設での4週間実習でした。それまでは、障害のある方と関わる機会もなく、介護福祉士＝高齢者の施設で働く職業であり、「障害者施設は雰囲気が暗そう」とか、「コミュニケーションをとることが難しそう」などと勝手なイメージを抱いていました。

実際に行ってみると、明るい利用者の方が多く、お話が好きでよく話しかけてくださる方も多く、障害のある方とのコミュニケーションや活動がとても楽しく感じられました。障害がある方が安心して楽しく生活できるように、障害についてもっと勉強して支援していきたい、障害者施設で働きたいと自然に思うようになりました。

プロジェクト
B

地域志向型キャリア教育のプログラム開発とその実施

事業実施主体：佐賀大学全学教育機構

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

□ インターフェースプログラム（地域志向型）

全学部学生が必修としているインターフェース科目（4科目8単位（Ⅰ～Ⅳ））の全てのプログラムを地域志向化し、A～Dの地域志向度別のプログラムとして開講しています。

A型：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべてが地域志向型
B型：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのいずれか1～3科目が地域志向型
C型：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの1科目（15回分の半分以上）が地域志向型
D型：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの1科目（15回分の1～5回分程度）が地域志向型

コース	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ数	地域志向度及びプログラム数
環境	5	A型：2、　B型：1、　C型：なし、D型：2
文化と共生	8	A型：2、　B型：なし、C型：なし、D型：6
生活科学	10	A型：2、　B型：2、　C型：1、　D型：5
医療福祉と社会	4	A型：なし、B型：なし、C型：なし、D型：4
地域・佐賀学	3	A型：2、　B型：1、　C型：なし、D型：なし

※プログラム×4＝科目数

株式会社エスプロジェクト紹介動画作成
「A:地域創成学Ⅱ」

「さが県の地域ブランディング」
ブース企画・運営「A:地域創成学Ⅱ」

□ チャレンジインターンシップ

基本教養科目（総合科目）「チャレンジ・インターンシップA（1単位）・B（2単位）を開講し、マイクロソフトイノベーションセンター佐賀（MIC）：佐賀大学-佐賀県-佐賀市-マイクロソフト-株式会社パソナテックの連携協定事業-において、実践的なプログラム開発やデータ解析を行いました。授業は、地元IT企業4社（株式会社アイセル、株式会社九州コーユー、福博印刷株式会社、株式会社パソナテック）によるリレー方式で行われ、実際のweb上での販売画面を用いた実習や、売上データの解析を行うプログラムを実施し、3名の受講者がありました。これにより実践的なIT技術を習得するとともに、地元IT企業の業務に触れる機会が得られました。

チャレンジ・インターンシップB

□ 地域を志向する副専攻

平成30年度に開設する地域を志向する副専攻（情報キャリアデザイン、コンテンツ・クリエーター、佐賀創成学）のカリキュラム・規則等の整備を行い、開講の準備を整えることができました。副専攻は、教養教育科目（インターフェース・プログラム8単位を基盤に、関連する基本教養教育科目（チャレンジインターンシップを含む）と学部専門科目を体系的に編成したものです。

□ 佐賀版キャリアデザイン

後期の基本教養科目（総合科目）において、地域を志向する「佐賀版キャリアデザイン」を今年度も開講しました。講義では

佐賀における様々な働き方を知ることで、佐賀で働き、地域に貢献する人材となることの意義と魅力を理解し、地域に貢献できる人材になるためのきっかけを提供しています。地方公共団体・NPO団体、地元企業の方による特別講義を実施し、239名の受講者に地元就職に向けたキャリアモデルを学生に提供することができました。

また、インターンシップ報告会では、様々な学部から4名の学生に登壇頂き報告会を実施しました。

1Dayインターンシップに参加した学生は「自分の良く知らない企業を見てみたい」と食品会社のインターンシップに参加し、「参加することによって会社の雰囲気を知ることができ就職活動にも活かせると思った」と話されました。佐賀大学とMICが共同で行う「チャレンジ・インターンシップ」に参加した学生は「IT企業における実践的なデータサイエンスを実習できた」と報告されました。

佐賀版キャリアデザインチラシ

日程	内容
10月 5日	イントロダクション
10月12日	佐賀の魅力を知る（講師：佐賀県観光連盟様）
10月19日	civic pride　―地域を誇り 地域で働く―
10月26日	佐賀でソーシャルに、グローバルに働く （講師：大野博之様　佐賀大学客員教授・「障がい者ビジネススクール　ユニカレさが」代表理事）
11月 2日	佐賀市のシティプロモーション戦略 （講師：南雲千寿様　佐賀市シティプロモーション室・室長）
11月 9日	地域で根付き、地域をコーディネートする （講師：唐津市離島地域コーディネーター様）
11月16日	ワールドカフェ（都会で暮らすこと、地方で暮らすこと、佐賀の魅力）
11月23日	さがを創る大交流会
11月30日	優良企業の探し方を学ぶ（講師：ジョブカフェSAGA様）
12月 7日	佐賀の企業を知る①（講師：株式会社Cygames様：IT業界）
12月14日	佐賀の企業を知る②（講師：日本赤十字社佐賀県支部様：医療関係）
12月21日	佐賀の企業を知る③（講師：株式会社メモリード様：ウェディング業界）
1月11日	佐賀の企業を知る④（講師：株式会社サガテレビ様：テレビ局）
1月25日	インターンシップ参加者による報告会
2月 1日	まとめ

佐賀県観光連盟

一般社団法人
ユニバーサル人材開発研究所

ジョブカフェSAGA

株式会社メモリード

唐津市離島地域コーディネーター

インターンシップ報告

株式会社Cygames

株式会社サガテレビ

プロジェクト
C

地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成

事業実施主体：佐賀大学芸術地域デザイン学部（H28.4開設）

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

□ フィールドワークを中心としたアクティブラーニングの推進

授業でフィールドワークを行い、現場において現状を確認し、課題を自ら発見することを目標としています。有田町では街並みの景観観察と新旧の工場を訪れて認識を新たにしました。課題を自ら発見し、その対応策を探る取組みの成果として、佐賀市中心市街地の活性化策の披露を行いました。2年目に入り、地域との連携が深まり、地域資源への関心が強まっています。

また、有田町西有田岳集落で行われた「棚田Tシャツアート展」プロジェクトの一つの取り組みとして、竹灯篭（ペットボトル灯篭）による棚田のライトアップ事業を学生が企画運営しました。竹灯篭、ペットボトルを活用した灯篭を製作し、アート展が開催されている棚田に並べ、当該プロジェクトに彩を添えるものです。

参加学生は、芸術地域デザイン学部：2名、文化教育学部：10名、経済学部：2名の計14名（男子：5名、女子：9名）からなり、夏休み期間中に企画・準備を行い、アート展の開催期間（平成29年10月14日～22日）に運営を行いました。

このアート展の取り組みは、地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成を目的としており、学生は有田町まちづくり課との連携を密にしながら、公民館でのTシャツ作りの手伝い、地域おこし協力隊や岳の棚田環境保全協議会メンバーとのさまざまな協働作業や準備作業を通して、地域社会における公的機関の役割を理解するとともに、地域に貢献できる人材になるための足がかりを得ることが出来ました。同時に、この取り組みは、地元住民との事前打ち合わせに始まり、竹の伐採許可の取得、灯篭作り、そして実際の運営に至るまで地域との協力関係の構築が必要となり、参加学生は責任感の重さを知るとともに、高齢化の進行する地域で地元住民と協同することの意義、埋もれた地域資源の活用方法の困難さ、地域活性化とは何かを自ら得る機会となりました。

フィールドワークの実施
（有田町）

フィールドワークの実施
（佐賀市、H29年4月14日）

活性策報告会

□ 有田キャンパスでの教育研究の推進

本年4月に、佐賀県立有田窯業大学校と統合して佐賀大学有田キャンパスが開設され、有田の地において芸術と科学の融合による「やきものイノベーション」の創出をめざしてスタートしました。やきものだけでなく、有田町関係者との連携を図りながら地域のさまざまな課題解決に向けた実践的な教育研究を進めています。

有田キャンパス

有田キャンパス

アート展ポスター

プロジェクト

D

子どもの発達支援士育成（COC+参加校との連携）

事業実施主体：大学コンソーシアム佐賀：佐賀大学教育学部（H28.4開設）

● 平成29年度の取り組み

■ 教育及び就職支援

平成28年度に行なったプログラムの検討結果をもとに、平成29年度も引続き、COC+参加校等（西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学等）と連携して子ども発達支援士養成プログラム（平成29年度受講登録者総数：171名）を実施しました。

本プログラムの核となる必修科目「子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）」は、前期と後期に1日ずつ実施する集中講義に加え、30時間の支援実習Ⅰへの参加を課しています。支援実習Ⅰにおいて、学生は、事業協働機関である佐賀県の佐賀県療育支援センターや佐賀県立特別支援学校、事業協働地域のこども園やNPO法人等を含む19ヶ所の実習先から、自ら希望する実習先を選択し、30時間の支援実習Ⅰを体験することにより、より実践的で確かな支援力を身につけることが可能となっています。また、本プログラムは大学間連携共同教育推進事業採択後6年目を迎え、延べ622名の有資格者を輩出しており、前期と後期の集中講義において、地元の関連施設に就職した有資格者を講師として迎えることにより、資格の取得や関連施設への就職に向けて、学生の更なる意欲向上に成果が得られました。

【午前の部：講義】

【午後の部：グループワーク】

【学生は障がいのある方々と直接関わる活動を通して、適切な支援の在り方を学びます】

	資格認定者数	入職者数	入職率
平成25年度	100名	79名	79%
		56名（県内）	71%（県内）
平成26年度	135名	109名	81%
		67名（県内）	61%（県内）
平成27年度	120名	89名	74%
		53名（県内）	60%（県内）
平成28年度	155名	119名	77%
		74名（県内）	62%（県内）
平成29年度	112名	入職状況については調査中	
合計	622名	396名	78%
		250名（県内）	63%（県内）

子ども発達支援士等の有資格者数と就職状況
（平成25～28、平成29年4月に入職した者まで）

＊子ども発達支援士って？＊

幼稚園、保育所、小学校等に関する免許・資格を有する方で、子どもの成長・発達に関する知識や技術の学修をもとに、発達障害等のある子どもの困りに気づき、子どもによりそった支援ができ、また保護者を支援できる方に対して、大学コンソーシアム佐賀が認定する資格です。
（大学コンソーシアム佐賀HPより引用）

「大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成」ＨＰ
http://www.saga-cu.jp/khs/

プロジェクト
E

産業界との連携による実践的地域志向キャリア教育及び地域労働市場の実態調査分析

事業実施主体：佐賀大学経済学部

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

地域志向型キャリア教育科目として、佐賀県経営者協会、佐賀経済同友会、佐賀県信用保証協会の協力のもと、県内企業経営者等による講義「実践科目　現代の経営（前期15回）を実施し、232名の学生（2年生以上）が受講しました。

座学に加え、県内企業への訪問や工場見学なども7回実施し、計192名が参加しました。様々な県内企業・団体に関する情報や働くことについてのイメージが提供され、学生と県内企業・団体との間の相互理解の向上に繋がりました。

「現代の経営」の様子
左：戸上電機製作所 代表取締役社長　戸上 信一氏
右：九州液化瓦斯福島基地株式会社 代表取締役社長　井原　有希氏

ヤクルト本社佐賀工場見学
（9月26日）

また、県内企業や自治体を受入機関とした単位制インターンシップ科目「実践インターンシップ」を開講しました。8月下旬に5日間の日程で、Aコープ佐賀（ミート事業部）および鳥栖市役所（総合政策課、文化芸術振興課、生涯学習課、社会福祉課、スポーツ振興課、市民協働推進課）の2機関において、「課題解決型」要素を含むプログラムを実施し、計14名の学生（2年生、3年生）が受講しました。現地での実習に加え、事前講習会（ビジネスマナー講座、PCリテラシー講習など）、事後報告会を行い学生・受入機関にとって実りのあるものとなりました。次年度以降の取組みに向けて、今年度受入機関（Aコープ佐賀、鳥栖市役所）の担当者との意見交換や、先進的な取組みを行っている機関への聞き取り調査を実施しています。

Aコープさが

■ 就職支援

経済学部2年生以上の全学生を対象に就職に関する意識（進路希望、希望勤務地、インターンシップの参加有無等）および取り組み状況を定期的に把握するように就職カルテシステムを構築しました。

また、就職相談体制を強化するため、12月より経済学部総務係内にキャリア支援室を設け、キャリアアドバイザーを雇用しました。学生談話室の一部に県内企業の紹介と就職支援情報の提供のためのコーナーの設置を学生の協力のもと進めています。

談話室
就職支援情報コーナー

■ その他

地域労働市場実態調査として、県内企業 280 社を対象とした雇用状況・ニーズに関するアンケート調査や他県における地元就職支援制度の調査を実施し、地元就職の課題等の把握を行いました。調査結果については、『地域雇用労働報告書』（COC+佐賀大学経済学部事業）として取りまとめ、佐賀県経営者協会および県内企業等に配布しました。

プロジェクト

F

障がい者就労支援士の養成
−継続して医学的ケアを必要とする方の就労支援教育−
事業実施主体：佐賀大学医学部

● 平成29年度の取り組み

■ 教育・研究

障がい者就労支援士に関連する講義について検討を行い、障がい者の就労に最も関わる医学部の学生を含む全学部での共通の講義として行うカリキュラムを組むことが容易ではないことから、特に理解が必要な医療的ケアを必要とする方への障がい者就労支援の骨子を全学部対象に講義し、卒業後の各分野での就労支援を担う人材養成を行うものとしました。その中で佐賀県高次脳機能障害者患者会「ぷらむ佐賀」と共同で高次脳機能障害研究会を開催し、識者の講演と質疑応答により、佐賀県内の当事者、家族支援、さらに高次脳機能障害の啓発活動を行うことが出来ました。

また、就労支援に重要な運転継続支援のために当該講義担当教員と理工学部学生有志による交通事故データ解析を実施し、佐賀県警と共同でのビッグデータ解析（データ数約33,000件）について交通事故データの分析を継続して行っています。

農学部のアグリセンターにおいて屋外計測におけるデータ取得法について検討を行い、近赤外光分光法とスマホを用いた脳機能計測法及び唾液アミラーゼ活性に関する研究成果が学会誌に採用され、その結果などをもとに博士（医学）の得て院生教育に貢献出来ました。

障がい者就労支援と子ども発達支援において、佐賀県内でのがん・難病患者の支援組織、さらに障がい者に対する就労支援組織の分布状況やその活動内容に関して、アクティブ・ラーニングの手法を応用し、当該科目受講学生による分析を遂行しました。

医学部における就労支援の一環として、脳卒中後遺症などの患者のリハビリテーション、復職などの為の、運転再開リハビリテーションと相談を行い、成果がありました。

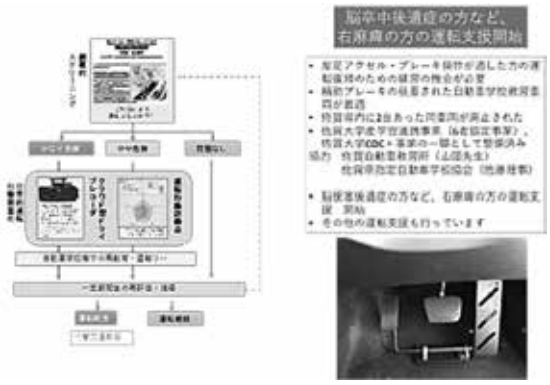
運転免許センターにおける臨時適性相談と患者支援に助言を行い、運転可否判断に必要となる実車運転評価に関して、先進のクラウド型ドライブレコーダによる自動車学校での車両挙動測定、担当診療科におけるコンサルタント、情報提供と協議を行い、成果が得られました。

近郊の関連病院と共同で、脳卒中後遺症患者の運転可否判断と運転リハビリテーション、そして就労再開への準備活動を拡大することができました。

この活動で大分県にも協力関係が構築でき、佐賀地域での活動の先進性と共に、北部九州にまでその範囲を広げることができると考えられています。

講演会ポスター

運転リハビリテーションの
県内への拡大への提案



患者運転再開への具体的支援策

就労の為の運転リハビリテーション

プロジェクト
G

産業界との連携による創造型工系キャリア教育による人材育成

事業実施主体：佐賀大学理工学部

● 平成29年度の取り組み

■ 教育・インターンシップ

佐賀県内企業等との意見交換を行うため、一昨年度立ち上げた「さが創造型工系キャリア教育連絡会」を2回開催、創造型工系教育システムについて意見交換を行い、インターンシップや演習、キャリアデザインセミナーの開催について協議を行いました。

平成31年度より改組となる理工学部での再編及び新カリキュラムの骨格・内容等を理工学部組織再編委員会で議論し、地方創生に向けた複合的視点を有し地域に貢献できる人材の育成に向けたカリキュラム改正を行いました。加えて、12月には県内企業を含む各種団体・企業などに改組に対するアンケートを実施しました。その中で、企業が理工学部の学生に「専門知識と複合的視点（26%）」と「理工学基礎力（25%）」を求めていることがわかりました。意見交換を踏まえて佐賀大学理工学部組織再編委員会及び理工学部教務委員会で議論し、地方創生インターンシップS/LやサブフィールドPLの導入を決定しました。

ガイダンスの様子

インターンシップ発表会

□ 「地方創生インターンシップⅠ・Ⅱ」

地方創生インターンシップは理工学部生が、佐賀県内企業でインターンシップを実施するもので、企業での研修期間は5日間以上もしくは10日間としています。実施する準備として 4月から5月にかけて、運用のフロー、シラバス、協定書、覚書書、実習計画票、参加学生リスト、学生紹介票、学生評価票などを作成しました。

また、研修前にはビジネスマナー習得や実習先に関する業界研究を行い、研修後には合同の発表会を実施しインターンシップ先の担当者にも参加頂き、成果に対する意見交換を行いました。今年度は都市工学科および電気電子工学科の学部3年生10名が参加しました。

キャリアデザインセミナー
松尾建設株式会社

■ 就職支援

□ 「さが創造型工系キャリアデザインセミナー」

各学科が主催し、さが創造型工系キャリアデザインセミナーを実施しました。

- 都市工学科：11月8日（水）、松尾建設株式会社佐賀支店の伊藤拓也氏をお招きし「私のキャリア形成と地域での建築施工業務」と題した講演会を行いました。講演後は、就職活動に関するアドバイスを頂きました。都市工学科、都市工学専攻の学生41名が参加しました。
- 機能物質化学科：12月15日（金）、佐賀県農業協同組合中央会の山田武史氏をお招きし、就職活動や農業協同組合の業務や働き方について講演会を行いました。28名の学生が参加しました。
- 電気電子工学科：1月5日（金）、株式会社戸上電機製作所の大下裕史氏をお招きし、「製造業における製品開発・設計」と題して講演頂きました。複数の学科から93名が参加しました。

キャリアデザインセミナー
佐賀県農業協同組合中央会

キャリアデザインセミナー
株式会社戸上電機製作所

□ 「肥前地区キャリア教育プログラム」

4月に発足した「肥前セラミック研究センター」ではセラミックスに関する教育・研究を推進しています。このプログラムでは肥前地区企業と肥前セラミックス研究センターと町が連携し、肥前地区の“街のよさ”や“企業のよさ”を知ってもらうことで学生の肥前地区企業への就職を後押しするものです。平成29年度は24名の学生が参加し、佐賀大学有田キャンパスでのセラミックスを中心とした産業に関する講義や関連施設を訪問、工場見学を行いました。

□ 「さが地方創生合同就職説明会」

平成29年6月28日（水）佐賀大学大学会館2階多目的ホールにて佐賀県内企業14社が出展した「さが地方創生合同就職説明会」を開催致しました。参加学生は56名で、実施後の学生アンケートでは地場企業に興味を持つ学生も多いことが分かりました。

さが地方創生合同就職説明会チラシ

各企業のブースで会社説明を受ける学生

■ その他

□ 「SAGAものスゴフェスタ2017」

子どもたちにモノづくりの楽しさを体験してもらうことで将来の人材育成につなげようというイベント「SAGAものスゴフェスタ2017」（8月26日（土）、27日（日））に佐賀大学肥前セラミック研究センターとして参加し、「型で有田焼マグカップを創ろう」というイベントを実施しました。中学生、小学生その保護者48名の参加がありました。
（展示スペースの都合上1回につき8名が参加可能）

学生と一緒に参加者が型に泥漿を流し込んでいる様子

有田焼の作り方を参加者に説明

□ 「研究発表・講演会」

- 科学と芸術の融合による“やきもの”イノベーション（参加者107名）
- 第一回セラミックサイエンス部門研究成果発表会
- ICT防災デザイン研究報告会　　他

研究成果発表会ポスター発表会

□ 「共同研究」

締結された共同研究5つが今年度始動しました。また、セラミックスに関する共同研究等について有田町を中心に、企業訪問などを行いました。

- 肥前セラミック研究センターと佐賀県窯業技術センター（有田町）（工業用磁器、タイルなどの生産・販売）との共同研究締結
- 株式会社PATとの共同研究締結
- 岩尾磁器工業株式会社との共同研究締結
- 嬉野市と「嬉野市新幹線新駅開発に付随するまちづくりデザイン研究」共同研究締結
- 鹿島市と「鹿島市民会館改築計画の再構築に関るデザイン研究業務」共同研究締結

住人と防災について意見交換

プロジェクト

H

農業のIT化と6次産業化を担う人材育成

事業実施主体：佐賀大学農学部

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

インターフェース科目「2年間でできる「がばいベンチャー」」Ⅰ及びⅡを2年生向け（36名受講）、Ⅲ及びⅣを3年生向け（33名受講）に開講しましたⅢ及びⅣでは11月実施の「2017さがを創る大交流会」の出席管理システム「サガしる」を開発しました。また、インターフェース科目内でNPO法人鳳雛塾と連携したキャリア教育プログラムを試行しました。農業IoT講義内容については、新たにNPO鳳雛塾とも連携しながら大学向けコンテンツとして整理を進めます。

更に、学部改組に合わせて、新規に「農業ICT学」を開講予定です。

前期開講のインターフェース科目「食料と生活Ⅰ」では40名の受講学生にノビルのプロジェクトについて、後期開講の「食料と生活Ⅱ」では41名の学生に茶の研究について講義を行いました。

2年間でできる「がばいベンチャー」

ノビルの栽培実習

野蒜（ノビル）や発酵茶を材料として機能性食品や化粧素材を生み出す！

佐賀大学ではインターフェース科目以外の専門分野科目でもノビルやお茶に関する講義を行っており、研究にも力を入れています。

■ 研究

□ 化粧品開発拠点事業

株式会社東洋新薬と化粧品素材開発研究し、九州地域バイオクラスター協議会素材・製品コンテストで特別賞を受賞しました。

≪発酵セラミド（素材）≫

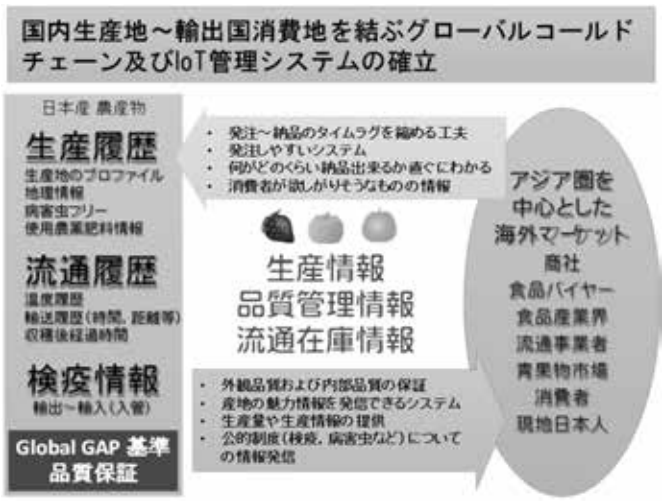
『発酵セラミド』は、佐賀大学の協力のもと開発した白麹菌由来の真菌特異的セラミドを含む化粧品原料です。

昨年の9月に農学部と株式会社アルビオンなど4者と「スリランカ有用植物産業化コンソーシアム」を設立しました。また、スリランカ伝統植物研究所を訪問して教員と学生7人が4回にわたって研修を行いました。

研究所 圃場視察

◻ IT農業拠点事業

成果に基づいたIT農業アライアンスを12月に発表しました（株式会社オプティム）。新たに農林水産省 革新的技術開発緊急展開事業 地域戦略プロジェクトの一部として「農産物輸出用のIoT管理システムの開発」に着手（平成30年まで）し、12月5日（火）に佐賀大学において内閣総理大臣補佐官による視察を受け入れました。IT農業関連の技術開発は一通りの目途がつきサービス提供に至りましたが、次年度は輸出管理システムの完成とリリースを目指します。



農産物輸出用のIoT管理システムに関するぽんち絵

株式会社オプティムと農業用のアグリドローンを共同開発しました。
農家の負荷を減らし、農作業の質を高めることができます。

「IT企業の本店が佐賀大学内へ」

株式会社オプティムは佐賀大学内に佐賀本店を移転させ、学術研究とIT技術の融合や研究成果の社会活用、教育活動の活性化、産学連携のより一層の推進を図り、研究並びに人材育成を通した地域の発展や新しい地域産業の創生に連携協力することを目指します。

来年度からはインターンシップの受け入れも開始します。

◻ プロジェクト研究拠点事業

佐賀大学茶の文化と科学研究所との共同で、茶に関する研究会を6月3日（土）に開催しました。佐賀大学農学部学生、COC+参加校である西九州大学の学生も参加し、佐賀県職員、佐賀県内企業関係者と交流、情報交換行いました。

佐賀大学茶の文化と科学研究所との共同で、茶に関する研究会を10月28日（土）に開催しました。インターフェース科目「食料と生活」受講生を含む佐賀大学及び西九州大学の学生約50名も参加しました。学生は、一般の参加者、また佐賀県内試験場関係者や農業関係者と交流することで、食と健康への興味を深めるとともに、県内食品関連企業の現状と動向に関する最新情報を得ることができました。

これらの成果は,担当した学生自らが学会発表を行い，論文として発表することができました。

学会発表：

園芸学会秋季大会（北海道）「SSRマーカーによるノビルの遺伝的特徴」

生命科学系合同年次大会（神戸）「紅藻由来フロリドシドは甘味受容体を活性化する」

学術論文：

・First Genomic Sequence of Shallot Latent Virus in Allium macrostemon Bunge.； H29年8月；Genome Announcements, 5, 33, e00809-17

・ノビル鱗茎の成分解析； H29年8月； 日本食品化学学会誌, 24, 2, 63-68

プロジェクト

I

地元就職率向上のための支援と高大連携による地元入学率の向上事業

事業実施主体：佐賀大学キャリアセンター・アドミッションセンター

● 平成29年度の取り組み

■ アドミッションセンター

高校生に大学の教育・研究に興味関心を持たせる授業や実験を展開することによって受験者層を育成するという視点に立った「継続・育成型高大連携カリキュラム」の「佐賀大学とびらプロジェクト」として、「教師へのとびら」（3回）、「科学へのとびら」（3回）、「医療人へのとびら」（2回）を佐賀大学で開催し、延べ1,092人の生徒が参加しました。

佐賀県内高校生へ佐賀大学卒業生の県内企業、官庁での活躍や企業活動を紹介する「地元で輝く佐大OB・OG」《Saga Shigoto》リーフレットを作成し、高等学校等へ配布しました。

「教師へのとびら」修了者記念写真

Saga Shigoto

■ キャリアセンター

地域企業と連携した少人数PBL型の授業を通じて、地域社会のリーダーとして、地域の課題を発見・解決し、地域に貢献できる人材の育成を目指した教養教育科目（総合科目）「地域・社会と教育」を開講し、2年生を中心に59名が履修しました。

就職に関する情報を早期に学生に提供することで、佐賀県内企業を学生に周知し、将来の就職先の候補として学生が認識できるようにするために昨年度作成した佐賀で活躍する社会人ロールモデル集『Career Design in Community』を、初年次大学入門科目のキャリア教育にて教材として使用しました。本冊子にはロールモデルの講演内容をまとめた記事のほかに、各学科の就職担当教員が推薦する佐賀県内企業の一覧や県内企業のインターンシップ情報も記載しています。

また、地元就職率向上のため、地元企業・自治体を対象としたインターンシップ合同説明会を7月と12月の2回開催しました。7月は207名の学生が参加し、そのうち28名が佐賀県内の企業または自治体のインターンシップに参加しました。

教養教育科目（総合科目）「佐賀版キャリアデザイン」を継続して開講し、佐賀における多様な働き方を知ることで、佐賀で働き、地域の貢献する人材となることの意義と魅力を理解し、地域の貢献できる人材になるためのきっかけを提供した。（1年生を中心に239名が履修）

「地域・社会と教育」授業風景

「地域・社会と教育」授業風景

インターンシップ合同説明会

佐賀版キャリアデザイン

「地域・社会と教育」授業風景

プロジェクト
J

地域志向キャリア教育の改善（PBL化等）・中長期実践型を含むインターンシップの高度化

事業実施主体：西九州大学（COC+参加校）

ホームページ

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

地域連携センターでは地域志向型キャリア教育（インターンシップ・PBL等）をコーディネートしており、学生支援課と連携を図りながら事業協働地域を中心としたインターンシップ関連業務を実施しています。

□ 課題解決型（PBL型）インターンシップの企画・実施

①「サガ・ライトファンタジー」の広報活動：佐賀市商業振興課

参加学生数：6名、期間：8月29日（火）～10月31日（火）および1月13日（土）、課題：サガ・ライトファンタジーの認知度向上と集客アップ、取り組み：えびすFM「スマイル249」やNHK佐賀放送局「ニュースただいま佐賀」への出演など

②「さが大産業交流展2017（9月16日、17日）」でのブース出展・運営

参加学生数：4名、期間： 8月10日（木）～9月28日（木）、課題：佐賀商工会議所青年部主催「さが大産業交流展2017」 での魅力的な出展ブースの企画・運営、取り組み：大学発商品（COC事業）のPR・販売、開発者の教員やJAさがへの取材活動、商品を使ったアレンジレシピの考案など

③「サガスト！」

参加学生：6名（+1名ﾒﾝﾀｰの学生）、期間： 8月19日（土）～11月23日（木・祝）、目的：佐賀を支える方々を取材し、地元企業の魅力を記事にし、若い世代へ発信する、取り組み：7社に取材を実施し、記事を作成した。また、2017さがを創る大交流会において、取材企業の魅力や活動を通して得た学びをイベントステージで発表した。

④「2017さがを創る大交流会」での学生間交流ブース企画・運営

参加学生：学生1名、期間：7月3日（月）～11月23日（木・祝）、課題：集客アップと来場者の満足度向上、取り組み：来場者主体の参加型の企画（「しゃべり場」「佐賀クイズ」）を考案した。

⑤「オープンキャンパス」運営

参加学生：4名、期間：4月18日（火）～8月20日（日）、課題：オープンキャンパスへの参加者数アップ、取り組み：アンケート調査や高校訪問を行い、当日は所属するスポーツ健康福祉学科の企画運営に取り組んだ。

⑤のプログラムは学内インターンシップのため単位認定外でしたが、各企業が催すイベントに作成したプログラムを応用できる点で大きな成果となりました。

□ 「インターンシップ勉強会」

- 12月13日（水）『今、佐賀で行うインターンシップとは・・～多様化するインターンシップの受け入れから実施まで～』を開催、県内の企業・自治体・NPO団体から12社16名の参加がありました。
- 2月23日（金）　『レゴ®シリアスプレイ®を活用したワークショップ～学生の成長を可視化しよう！』を開催しました。

□ 「インターンシップフェアへのバスツアー」

マイナビが主催するインターンシップフェア（7月1日（土）開催）へのバスツアーを企画、実施しました。当日は学生18名が参加しました。

サガ・ライトファンタジーの様子

佐賀新聞社の取材に応じました。

「サガスト！」の取材中

若者向けの県の施策認知度調査
2017さがを創る大交流会にて

勉強会の様子

プロジェクト

K

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

事業実施主体：九州龍谷短期大学（COC+参加校）

ホームページ

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

各学科では学外と協働しインターンシップ等の人材育成を実施しました。

- 人間コミュニティ学科　映像・放送コース
  メディア関連企業との連絡会議等を設置し、インターンシップ等を実施。
- 人間コミュニティ学科　司書・情報コース
  鳥栖市立図書館をはじめ佐賀県内の図書館等と連携、協働しインターンシップを実施。
- 人間コミュニティ学科　仏教コース
  仏教教育と地域振興への貢献を目的に6月20日（火）に浄土真宗本願寺派18寺院（三根組）と幅広く連携する包括連携協定を締結。県内の寺院を中心として実習などを協働して実施。
- 保育学科
  地元の幼稚園・保育園等と連携し、資格・免許に関連する実習をはじめ、教育課程の編成や内容についての協議を行い、実習を実施。
  今年度の子ども発達支援士養成プログラムには42名の履修登録があった。

平尾三根組組長（左）と後藤学長

鳥栖ルンビニ幼稚園菅原園長の講演

アクティブ・ラーニング方式の地域志向型キャリア教育の一環として、各学科の関連企業等から外部講師を招聘して学生との交流の場を設けました。

■ 就職支援

各学科の専門性を活かせる佐賀県内の関連企業等との連携のため、事業所を18件訪問しました。就職支援及び就職対策支援室の管理・運営等を行い、対策室相談件数23件中10件が就職に結びつきました。また、一昨年度より準備していたハローワークの求人情報オンラインシステムを運用し、学生及び教職員が地元企業等の求人情報収集が可能となりました。さらに、6月より11月にかけて専門のキャリアカウンセラー（外部委託）によるカウンセリングを実施し、19名が活用しました。

西九州大学・佐賀女子短期大学と合同で6月25日（日）に佐賀県保育会就職説明会を佐賀龍谷高校にて開催しました。当日は312名の参加者があり、保育者の地元就職の意識向上につながりました。

就職先での学生の評価アンケート調査やニーズアンケート調査（事業所が学生に求めるものアンケート）、さらに学生・卒業生にもアンケート調査を実施しました。これから結果を分析していきます。

キャリアカウンセリングの様子

■ その他

鳥栖市の商工会議所と九州龍谷短期大学は、地域振興への貢献を目的に幅広く連携した、包括連携協定の締結に向けて動いています。先に締結した鳥栖市と鳥栖市教育委員会とともに、地元企業へのインターンシップや就職の推進、保育士不足などの解消に向けた取り組みを実施します。

佐賀県内の就学前の子どもと保護者を招いて「第2回子どもフェスタ」を7月1日（土）に開催しました。主に鳥栖市内の園児や保護者など約160人が訪れ、親子で粘土遊びや的当てゲームなどを楽しみました。

子どもフェスタ

プロジェクト

L

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

事業実施主体：佐賀女子短期大学（COC+参加校）

ホームページ

● 平成29年度の取り組み

■ 教育

事業協働地域を深く理解するための講義や地方公共団体・企業と連携しアクティブ・ラーニングを行いました。

- 全学科対象

「地域みらい学Ⅰ、こども未来学Ⅰ」（対象：１年生）

本年度新たに設置された科目で、全学生が必須科目。地元の現状や課題に取り組み、1月10日（水）に全学科合同での成果発表会を実施。

「旭の女性とみらい」（対象：１年生）

昨年度より開講。自治体との連携のもと、身につけた着付けの技能を生かして地域の活性化につながる活動を実施。

「佐賀を歩く」（対象：１年生）

複数あるテーマ別にグループ活動を行い、公民館や地元に残る文化の理解などを教員の指導のもと実施。

- 地域みらい学科

「地域職場研究」（共通専門科目）

県内の企業に就職した卒業生を招き、地元の企業を中心とした業界研究、職場研究を実施。「2017さがを創る大交流会」には89名が参加し、県内企業の情報収集と企業人との交流の機会を高める取り組みを実施。

- こども未来学科

「子どもの支援Ⅰ」（基礎・実習）

子ども発達支援士（基礎）の関連科目で履修登録者は74人。資格取得予定者は36名。

「協定締結・インターンシップ」

小城市や武雄市と協定を締結。「産学連携協定」を、株式会社ティーウェイ航空、福博印刷株式会社、西日本旅行の三企業と締結。今後、インターンシップなどを実施予定。

小城市連携地域みらい学

着物の着付けと武雄のまち歩き

武雄市の小松市長と

■ その他

高校生の入学増及び県外流出を抑えることを目的として、COC+事業についてのチラシを作成し、７月に県内の高校に配布しました。

9月16日（土）、17日（日）に県内57企業団体が参加する佐賀商工会議所青年部主催の「さが大産業交流展2017」に出展し、地元就職に繋がる相互情報交換を行いました。

県立佐賀農業高等学校・佐賀女子短期大学付属認定ふたばこども園と田植え・稲刈りの稲作一連の体験学習を実施し、地域の高校との連携活動を通して相互理解を図りました。

平成27年度・28年度の子ども発達支援士（基礎）資格取得者の就職状況を調査しました。平成27年度は59.4%、平成28年度は53.4%が佐賀県内で保育士・幼稚園教諭等資格を活かした職業に就いていることがわかりました。

さが大産業交流展2017出展ブース

高校生と田植え

◆ 広報

COC+事業のリーフレットの刷新やプレスリリースやホームページ、各大学と連携して運用しているFacebook、ニュースレター、ラジオ出演（NBCラジオ）、新聞において積極的に情報公開・発信を行いました。

■ リーフレットリニューアル

平成27年度に作成したCOC＋事業リーフレットを今年度リニューアルしました。
新たに5機関増え、55機関になった「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の構成図の変更や、COC+事業で実施している特徴のある地元就職率向上の取り組みを紹介しています。

■ ラジオ出演

「2017さがを創る大交流会」をPRするため、NBCラジオ佐賀(長崎放送株式会社佐賀放送局)の「ここ♥らじ」に地域創生推進センターの職員が出演しました。（11月13日（月）11時～）

■ ホームページ・Facebookページの運営

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトのホームページではそれぞれのプロジェクトの活動を発信しています。Facebookとも連動させており、各大学のプロジェクト活動を連携して更新しています。

ホームページの月間アクセス数は721件で月間ページビュー数は3,662件でした（平成29年4月1日から平成30年1月30日までの平均値）。

「2017さがを創る大交流会」に関する記事への関心が高く、開催日当日は1日504件のアクセスがありました。Facebookページでは「2017さがを創る大交流会」ページ対する「いいね」数が216あり、関心の高さがうかがえました。

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトホームページ（http://cocplus.saga-u.ac.jp/）

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトFacebook（http://www.facebook.com/cocplus.saga）

■ ニュースレターの発行

COCとCOC+が共同してニュースレター「がばいさだい」を年2回発行しています。

COCにおける地域志向型教育の取り組みや、COC＋のインターンシップ関連の取り組み、県内企業の紹介などを掲載しています。

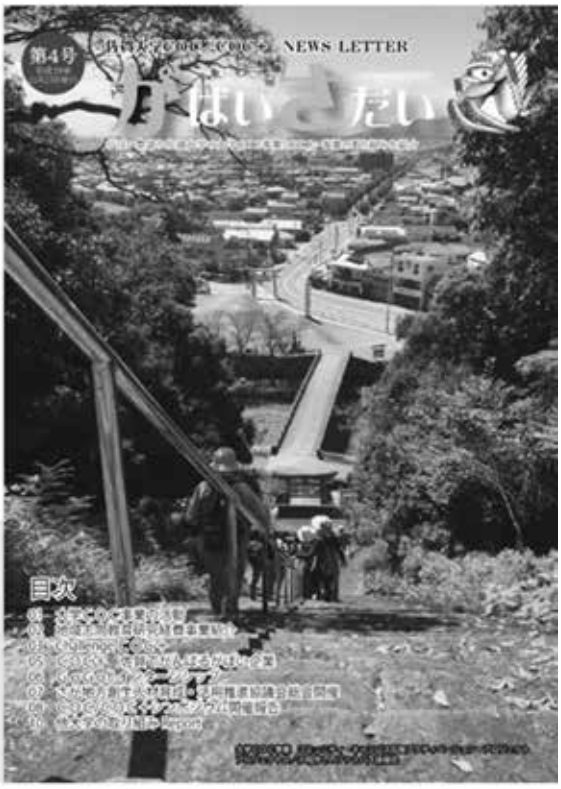
佐賀大学COC/COC＋ニュースレター第3号

地域創生推進センター

佐賀大学構内に株式会社 オプティムの新社屋が完成！

株式会社オプティムが 10 月 20 日、佐賀大学に先端技術の研究拠点「オプティム・ヘッドクォータービル」を開設しました。
さっそく新社屋をリポート！

国立大学法人 佐賀大学
地域創生推進センター
TEL.0952-28-8958 FAX.0952-28-8186
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町 1 番地
（学術研究協力部社会連携課）
http://www.sousei-center.saga-u.ac.jp



COC+

Challenge COC+

COC＋関連科目でのチャレンジ教育や地域での人材育成・活性化方策の展望・取組の取り組みを紹介します。

「さがを創る大交流会」アプリ制作 ストーリー

from『2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方 Ⅲ・Ⅳ』

「2年間でできる「がばいベンチャー」の作り方」（通称：「がばべん」）は、インターフェース科目のひとつ。株式会社オプティムスタッフが講義を担当し、2年間でアントレプレナーシップやプログラミングなどを身につけます。
この授業の中で、11月23日開催される「さがを創る大交流会」でのスタンプラリー＆公開講演アプリを開発しました。開発までの過程のりをご紹介します。

平成29年4月～

「さがを創る大交流会」アプリ開発スタート

株式会社オプティムの長船俊介氏の指導の下、約40名の受講生とスタートした「さがを創る人交流会」用のアプリ開発。前半の授業では基本であるバックスケール図や WBS（Work Breakdown Structure）などの作成について学びました。「がばべん」受講2年目を迎えた学生は、専門用語が飛び交う授業もなんのその？

平成29年5月～

プログラミングとデザインに奮戦苦闘

中盤の授業では、アプリの基盤でもあるプログラミングと画面のデザインについて学びました。芸術地域デザイン学部の学生がデザインしたアプリの画面を基に、自分たちでデザインをしたり、アプリ名を考えたりしました。アプリ名は「チガしる」に決定しました。

平成29年10月～

アプリの動作テストを実施して ついに完成！

後半の授業では開発したアプリの不具合やその修正について学びました。
最終日には、「さがを創る人交流会」の会場となる佐賀県総合体育館でアプリの動作テストを実施。会場では、受講生約40名が一斉にアプリを起動させ、データ入力を行いました。また、色々な場所でアプリが起動するか確認をしたり、QRコードを読み取ってスタンプを集めたりして、不具合がないかチェック。実際に自分のスマートフォンでアプリが動くのを見て、学生たちも感激していました。

活動 Pick up!!

COC＋「さがを地方創生人材育成・活用プロジェクト」は、COC＋事業終了後の2年間で全12プロジェクトを実施しています。今回は全体を学内部門の経営9プロジェクトの中から2つのプロジェクトの取り組みを紹介します。

経済学部

現代の経営及び実践インターンシップ

経済学部では、県内経済団体（佐賀県経営者協会）の協力のもと、県内企業経営者による講義（「実践科目 現代の経営」）及び県内企業における単位制インターンシップを実施し、学生と県内企業間の相互理解向上、学生の社会人基礎力の獲得を図ります。

「現代の経営」では、県内企業の経営者による講義について、現場的・歴史的視点を深めます。講義では、株式会社戸上電機製作所や株式会社村岡総本舗など、県内で活躍する企業経営者からの貴重な体験談を伺います。
また、今年度から正課科目として「実践インターンシップ」が開講し、14名の学生が参加しました。受け入れ先の島根県松江市の株式会社 A コープさがミート事業部では、概要説明から各部署の実務体験、そしてPBL（problem based learning）が組み込まれ、実際の職場における業務及び問題発見とその解決策提案に取り組みました。

理工学部

地方創生インターンシップⅠ・Ⅱ

理工学部では、昨年度に引き続き「地方創生インターンシップⅠ・Ⅱ」を行いました。学生は、インターンシップを通して県内企業の事業内容や特徴を知ることができます。今年度は学生12名が参加し、6月のガイダンテーションから企業マッチング、ベナー講演、業務研究など、各自準備を進めてきました。

九州最大手の建設会社である松尾建設株式会社のインターンシップでは、初日は現場見学、2日目以降は測量実習や特殊な意識した工程管理業務などを体験しました。また、青葉台では結露分析及等を経験し、大学での学びを実践で実践し加験を深めました。
全体の成果報告会では、実際の工事現場の写真や 3DCAD で作成した図像、実製品などを用いて一人ずつ発表しました。インターンシップに参加したことで身近な橋や道路、製品等が地元の企業に支えられてつくられていることを改めて知ることができた、という意見が多く聞かれました。

◆ 新聞記事

■「食と医」佐賀で技術革新

H29/3/16　日本経済新聞

企業力を読む

オプティム ㊤

「食と医」佐賀で技術革新

地方の課題解決に商機

佐賀大学発のIT（情報技術）ベンチャー、オプティムが「本店」を置く佐賀で地元と一体になって相次ぎ事業を展開している。主なフィールドは「食」と「医」だ。全国有数の農漁場や特徴ある大学病院でAI（人工知能）やドローン（小型無人機）などを活用し、生産や診療の技術革新に挑む。地方の課題解決で商機創出を目指す同社の動きを追う。

害虫発見や農薬散布などにドローンを活用する

スマートグラスで遠隔からも救急医療現場で支援を受けられる仕組みづくりが進む

春まで、有明海には支柱で整然と区画された海域にノリが育って黒っぽくなった網が広がる。13年連続でノリ販売日本一を誇る佐賀県では、漁師が他県に先駆け養殖環境を整え生産効率を高めてきた。それでも「病害との闘い」は今なお続く。オプティムは独自に開発したドローンなどを使い、品質や収量の向上、病害対策に県、佐賀県有明海漁業協同組合、佐賀大などと取り組む。

ドローンで散布

その有明海を望む広大な佐賀平野では、一足早くオプティムのIoT（モノのインターネット化）機器やAIを生かした「スマートやさい」の栽培が始まっている。生産額では他県に譲るものの、佐賀県は耕地利用率が30年続けて全国首位。日本で最も効率よく営農してきた地域で、とりわけ若年就農者を引き付ける。稼げる農業の再構築に向けた活動の一環だ。

オプティムは県内の7圃場で農産物の植え付けから収穫まで生育状況や環境のデータを蓄積し、解析する。対象は佐賀県が全国2位の生産量を誇るタマネギやアスパラガスをはじめ、コメや麦、大豆といった主要穀物、ミカンやキウイフルーツなどの果物あわせて28種類に上る。最適な栽培法を確立し、生産の履歴を販売にも役立てる。

実際に農地ではドローンが飛び、害虫を見つけ出したり、必要なところに最小限の農薬を散布したりする。2015年に始まった佐賀県や佐賀大との連携で病害虫検出技術の特許を共同で出願するなど、成果に結び付き始めた。今年1月、オプティムは佐賀大農学部の渡辺啓一学部長と県内の若手農家らに取り組みを説明し、協業を促した。

救急医療を支援

佐賀県が14年に導入した最新鋭のドクターヘリの機上。救急現場に向かう医師らはオプティムが手掛けた眼鏡型のウエアラブル端末「スマートグラス」を着用、搬送予定の病院と状況を共有しながら処置にあたる。昨年11月に始めた取り組みに、佐賀大医学部の阪本雄一郎教授は「助けられなかった患者を助けられる可能性は確実に高められる」と期待を寄せる。

この試みはオプティムと佐賀大医学部が包括提携し、同社の最新技術と医学部や付属病院の知見や臨床データを生かして医療効率を高める共同研究だ。眼科では、眼底画像をAIで解析し緑内障などの診断を支援する技術の開発が進む。

「人の命に関わる事業に参画できるのは幸せ」とオプティムの菅谷俊二社長は話す。人が生きるために欠かせない食と医は、企業の開拓余地が大きい市場でもある。佐賀ならではの地域資源を取り込み、農漁業や医療の未来とそこで成長する自社の将来を創業の地で描いている。

■ 佐賀大医学部で研究会

H29/3/29　佐賀新聞

発達障害のある人の運転行動に関する研究を報告した筑波大大学院の小菅英恵さん＝佐賀大医学部

佐賀大医学部で研究会

障害者、高齢者の運転 社会的なサポートを

障害者や高齢者が安全に自動車の運転を続けるための手だてを考える研究会が25日、佐賀大学医学部で開かれた。発達障害のある人の運転の傾向や、体が不自由になった後に運転を再開した会社員の経験談が紹介され、暮らしや就労を維持するための社会的なサポートの必要性を確認した。

交通事故総合分析センター（東京）の研究員で筑波大大学院に在籍する小菅英恵さんが、発達障害のある人の運転行動を報告した。ADHD（注意欠陥・多動性障害）の傾向がある人らが事故に遭うリスクを軽減するため、「発達障害で生じやすい事故のパターンを認識してもらう」など安全運転の方策を説明した。

脳出血で左半身まひになった後、リハビリを続けて職場に復帰し、運転も再開した会社員中島義彦さん（52）＝佐賀市＝は「（障害者の運転は）危ないからと遠ざけるのではなく、運転再開の方法を考えてほしい」と話し、「佐賀は障害者が運転するための支援体制が弱い。運転の可否を見極めるシステムが確立していない」と指摘した。

佐賀大医学部の堀川悦夫教授は「運転は生活と就労に関わる大事な要素。免許返納など、やめることへの意見が先行しているが、ケースによっては続ける方法もあることを知ってほしい」と訴えた。（原田隆博）

■「世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業」成果報告

H29/3/30　佐賀新聞

留学と就業体験の成果 報告

佐賀大生4人、知事に

佐賀市

佐賀県内での就職を希望する学生を対象とした「世界とともに発展するSAGANグローバル人材育成事業」で、留学とインターンシップを終えた佐賀大学の学生4人が、佐賀市の県庁で山口祥義知事に成果報告した。

経済学部4年の金沢昂紀さん(23)はJTB九州佐賀支店でインターンシップを終え、フィリピンのJTBに2カ月留学。現地から見た日本や、富裕層の割合などを学び、観光・交流産業を探った。金沢さんは「地方創生の本質的な部分に携わりたい」と意気込みを語った。

山口知事は「どれだけ個人の力を発揮できるかが大事。そこにいる自分ではなく、自分がいる〝そこ〟にして」とエールを送った。事業は県や県内企業らでつくる「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が実施した。（上田麻美）

山口祥義知事（中央）とプログラムの成果を報告した佐賀大学の（左から）堀池理央さん、井上賢生さん、金沢昂紀さん、白井青海さん＝佐賀県庁

■ 郷土を愛する人材育てたい

H29/4/1　佐賀新聞

郷土を愛する人材育てたい

ニュース
この人

―東京一極集中の是正や地方創生が求められる中、佐賀大学を中心にした産学官連携の協議会が、大卒者の地元定着に力を注いでいる。事業を始めたきっかけなどを教えてほしい。

事業の母体は、文部科学省公募の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（通称COC＋）」。佐賀大学は「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」として2015年秋に採択され、昨春から事業を本格的に始めた。協議会には佐賀女子短大、九州龍谷短大、西九州大をはじめ、県、20市町、経済団体、企業などが参加しており、いわば〝オール佐賀〟の取り組みだ。地方大学にとって最も分かりやすい地域貢献は、優秀な人材を地域に送り出すこと。19年度末までに4大学・短大の学生の地元就職率を14年度末の約35%から10%引き上げる目標を掲げている。

―柱となるのは、教育改革と産学官連携による雇用拡大・創出。どんなことに取り組んでいるのか。

佐賀大学では、教養教育、学部の専門教育の両方で地域志向型のキャリア教育を重視している。教養教育には昨秋、「佐賀版キャリアデザイン」「チャレンジ・インターンシップ（就業体験）」という二つの選択科目を新設。新年度は全ての学生が最低1科目は佐賀のことを学ぶように教養のプログラムを変更する。卒業生の起業家らを招いたベンチャー講座も続けており、18年度には学部の専門教育にITのスペシャリスト養成などを見据えた副専攻制を導入する。

―もう一つの柱、地元雇用の拡大・創出に関してはどうか。

大学の強みである研究開発力を生かし、県内企業が抱える問題の解決を支援しようと、教員が積極的に企業を訪問し、相談に応じている。新産業創出の支援分野として見据えているのは、有田を中心としたセラミック産業や、唐津コスメティック構想関連の化粧品開発、IT農業など。学生が大学で研究したものが企業で商品化されれば当然、就職にもつながっていく。

また、学生と県内企業の距離を縮めることも重要。学生は県内にどんな企業や仕事があるかよく知らないという現実がある。そのため、地元就職を希望する学生と、受け入れたい企業との出会いの場を設けた。新年度は県総合体育館で大交流会を開く計画もある。

―事業を成功させ、地域を元気にするには何が必要か。

県内企業の多くは人手不足に悩み、人材を欲しているが、学生に来てもらえないというジレンマを抱えている。一方、魅力的な仕事さえあれば佐賀に残りたいという学生は多い。県内に少ない技術職やオフィス系の職種を増やしていくことが望まれる。

地方創生絡みでいえば、県や市町は都会で働いたUターン人材の確保にも力を入れている。当面はそうした人たちとの競争の部分もあり、何より郷土愛で負けない学生を育てなければならない。さらに残ってくれた学生を企業や地域全体で伸ばしていくという視点も欠かせない。それがこの事業の本質ともいえる。

（聞き手　報道部デスク・杉原孝幸）

大卒者の地元定着プロジェクトを指揮する佐賀大教授

五十嵐　勉さん（59）

いがらし・つとむ　立命館大学大学院文学研究科修了。佐賀大学全学教育機構教授。「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の実施責任者として大卒者の地元就職率向上を目指している。福島県出身。

Depth
さが深掘り

■ インターシップに単位　佐賀大学、鳥栖市と協定

H29/4/6　佐賀新聞

インターンシップに単位

経済学部 佐賀大、鳥栖市と協定

鳥栖市と佐賀大学は、単位制インターンシップの受け入れに関する協定を結んだ。大学生の地元就職率向上や市役所の組織活性化につなげる。佐賀大が県内自治体と協定を結ぶのは初めて。

協定締結は4月1日付。佐賀大は2015年に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されており、その一環として本年度から経済学部の授業科目に「実践インターンシップ」を新設する。昨年9月に佐賀大から申し入れがあり、職員採用試験を人物重視に変更していた市も「時宜を得たもの」として受け入れを決めた。

学生は原則として8、9月の夏休み期間中、単位数（1か2）に応じて5～10日間のインターンシップに取り組む。鳥栖市は延べ11課に、一度に最大37人の受け入れを想定。体験する業務は、秘書業務や市報作成など多岐にわたる。

市総合政策課は「昨年7月にインターンシップの受け入れ要綱を策定したばかりで、良いタイミングだった。優秀な人材に入庁していただくきっかけにもなれば」と話す。（大橋諒）

■ 連携協定先の白石町で佐賀県知事とタマネギ収穫（佐賀女子短期大学）

H29/5/18　朝日新聞

タマネギの収穫をする山口祥義知事と佐賀女子短大生ら＝白石町

タマネギ収穫 知事と短大生が体験

佐賀女子短大の学生28人と山口祥義知事が16日、タマネギ農家でJAさが白石地区青年部長の木塩哲郎さん(35)の白石町のタマネギ畑でタマネギの収穫などを体験した。

木塩さんは13ヘクタールのタマネギ畑を持ち、べと病で記録的な不作となった昨年も、うねを高くし水はけをよくするなどして平年並みの出荷を保ち、2016年度の佐賀農業賞で最優秀賞を受賞した。今年も約910トンと、「平年並みが期待できる」という。

知事と佐賀女子短大・地域みらい学科の食とヘルスマネジメントコースの1年生28人は、畑で収穫されたタマネギの葉と根を切り、機械でコンテナに詰め込む作業などを体験した。

北川梨里さん(18)は「実際に畑で触れるのは初めて。葉などを切るのは楽しい」。北川さんは「タマネギの選別は難しかった。地域の人と協力していろんな人に食べてもらうことで、この町がもっと有名になれば」と話した。

今年は生産者らの努力などでべと病のまん延が抑えられているといい、山口知事は安心した様子。「タマネギの収穫シーズンは忙しく、うちの実家でも近寄らせてもらえなかったので、きょうはうれしかった」などと話した。（栄恵弘）

■ 高校生に教師育成講座

H29/6/19　西日本新聞

高校生に教師育成講座

佐賀大　県内14校の200人が参加

佐賀市の佐賀大本庄キャンパスで18日、教師を目指す高校生のための育成プログラムが開かれ、県内の14校から生徒約200人が参加した。

県職員の講演を聞く高校生

佐賀市近郊
佐賀、多久、小城、神埼、吉野ケ里

「高校、大学の計7年間で教師をはぐくむ」がコンセプト。教育分野に興味を持つ高校生を継続的に育成する目的で、2014年から毎年開かれている。プログラムでは学年別に分かれ、講演を聞いたり自分の経験を発表し合ったりした。

1年生の教室では、県職員が「先生という職業を考えているあなたへ」と題して講演し、教員の役割や仕事内容について紹介した。受講した三養基高1年の本村あかりさん(15)は「教員の魅力や採用試験の流れがよく分かった」と話した。

佐賀大によると、医療分野に興味を持つ高校生を対象に同様のプログラムも開講する予定だという。

（黒田加那）

■ 高大連携プログラム「科学へのとびら」

H29/6/19　佐賀新聞

未知に挑戦 最先端の研究紹介

高大連携プログラム 佐大で「科学へのとびら」

佐賀市

理系分野に関心がある高校生を対象にした、佐賀大学と県教委による高大連携プログラム「科学へのとびら」の本年度第1回講座が18日、佐賀市の佐賀大本庄キャンパスで開かれた。高校生たちは大学の最先端の研究の一端に触れ、科学への興味、関心を高めた。

県内12校の高校1年生約200人が参加し、佐賀大学海洋エネルギー研究センターの池上康之副センター長が講話した。池上さんは大学の魅力を「勉学は分かっていることを学ぶこと。（大学の）研究は分からないことに挑戦すること」と表現。さらに「『できない』と言う人はできない理由を探し、『できる』と言う人はできる理由を探す」と説き、諦めずに一つずつ積み重ねる大切さを訴えた。

将来、理論物理学者を目指す佐賀西高の八木春樹さん(15)は「研究に対する考え方を学ぶ機会はなかなか得られないので、新鮮だった。連携やチームワークの大切さなど学ぶことがたくさんあった」と話していた。

プログラムは昨年度スタート。出前講座のように単発ではなく、高校3年間を通して継続、育成することを目的にしている。講座は全7回で、この日は昨年度から受講する高校2年生の4回目の講義もあった。

（機政担当・古川浩司）

海洋温度差発電についての説明を聞く高校1年生たち＝佐賀市本庄町の佐賀大学

■ 仏教者の育成と地域振興で貢献を　九州龍短と18寺院
（九州龍谷短期大学）

H29/6/24　佐賀新聞

仏教者の育成と地域振興で貢献を　九州龍短と１８寺院

2017/6/24

拡大する

平尾晴久組長（左）と後藤明信学長＝鳥栖市村田町の九州龍谷短大

鳥栖市村田町の九州龍谷短大と三養基郡内にある浄土真宗本願寺派の１８寺院が２０日、仏教者育成と地域振興への貢献を目的に包括協定を結んだ。

同大であった締結式には後藤明信学長と、１８寺院でつくる同派佐賀教区三根組（みねそ）の平尾晴久組長が出席。三根組の教化事業の推進や宗門を担う人材育成などで連携する協定を結んだ。

後藤学長が「さらに交流機会を増やしさまざまな学びを深めたい」、平尾組長が「両者の人的・物的資源を共有・活用し人材育成を図りたい」とあいさつした。これまでは人間コミュニティ学科仏教コースの学生が三根組の寺院での実習などを通して連携・協力してきた。

■ 高大連携プログラム「医療人へのとびら」開講

H29/8/9　佐賀新聞

中高生、医療現場学ぶ

救命センター長が講話

高校1年60人聴講

佐賀大で「とびら」開講

県内

未来の医療人を育もうと、医療分野に関心がある高校1年生を対象にした「医療人へのとびら」が6日、佐賀市の佐賀大学鍋島キャンパスで開講した。高校・大学連携を進める佐賀大と県教委による「とびらプロジェクト」の第3弾。高校生は救急医療や災害時に求められる役割など現場に即した声に耳を傾け、関心を高めていた。

県内12校約60人の生徒が受講する。この日は佐賀大医学部附属病院の阪本雄一郎・高度救命救急センター長が講師を務め、11年に同病院が消防と連携して始めたドクターカーの事例が紹介された。救急車が同病院に常駐し、医師が同乗して現場に向かい、いち早く治療にあたる「病院前診療」を実現している。「少しでも、仕事をさせてもらう町の役に立てるように」とよりよい仕組みを探り続けてきた現状が語られた。

プログラムは全6回。大学側は医学部の講義や学部生と意見交換、手術シミュレーターなどを使う体験学習を検討しているという。

参加した佐賀清和高の日高可南子さん(15)は「『1分1秒でも速く診断治療に入る』という言葉が印象的。災害医療など現場の話を聞くことができて、とても勉強になった」と感想を話した。（中島幸毅）

「医療人へのとびら」の初回講義を受け、意見交換する高校生たち＝佐賀大学鍋島キャンパス

■ 佐賀大生が竹灯籠作り

H29/9/14　西日本新聞

佐賀大生が竹灯籠作り

有田町岳地区の棚田 来月14、20日に点灯

棚田に明かりをともそうと、竹灯籠を作った佐賀大の学生たち

佐賀大の学生7人が11～13日、有田町岳地区の棚田で10月にある「棚田Tシャツアート展2017」に向け、竹灯籠を手作りした。

同大芸術地域デザイン学部の山下宗利教授が推進するフィールドワーク実習の一環。地元の人たちと交流しながら、集落の竹林から切り出した竹で灯籠約100個を完成させた。

Tシャツアート展は昨年から始まり、棚田に特設した物干しに100枚以上のTシャツをなびかせる趣向。昨年は1週間で約2千人が訪れた。今年は10月15～22日に開催され、前夜祭の14日と20日夜、竹灯籠で棚田一帯をライトアップする。

学生たちは棚田そばの集会所「棚田館」に通って作業し、ペットボトルに紙を巻いたキャンドル立ても作った。渡辺裕理さん(20)は「空気が澄んでいて、ふるさとの宮崎と同じ自然の風景に安心します」と話していた。（平原奈央子）

■「さが大産業交流展」佐賀の製品、サービスPR
（西九州大学）

H29/9/17　佐賀新聞

「さが大産業交流展」　佐賀の製品、サービスＰＲ

１７日まで

2017/9/17

拡大する

産業交流展

県内の企業や学校が独自の製品やサービスをＰＲする「さが大産業交流展」（佐賀商工会議所青年部主催）が１６日、佐賀市のマリトピアで始まり、多くの来場者が訪れた。１７日まで。

昨年に続き、２回目の開催。今年は規模を拡大したほか大学や短大にも参加を呼び掛け、計５６社・団体がブースを並べた。型抜き加工をした印刷会社の印刷物や建設会社のドローンなどが展示され、家族連れが説明を受けたり、出展者同士で情報交換をしたりした。

西九州大はＪＡさがと開発したソースなどを紹介。独自の料理レシピを作り、試食を呼び掛けた。健康栄養学部１年の坂口菜々さん（１８）と八島明楼さん（１８）は「年代によって味の好みが違うことを学んだ。初めての経験で刺激になった」と話した。

同青年部の古賀利明会長（４８）は「佐賀のものづくりのレベルの高さを広く知ってもらい、就職先として若い人に目を向けてもらう機会にしたい」と話す。

■ COC・COC＋合同シンポジウム開催

H29/10/16　佐賀新聞

暮らし体験で若者定着狙う

地域担う人材育成でシンポ

岩手大特任准教授 船場さん講演

佐賀市

地域を担う人材の育成や教育をテーマにしたシンポジウムが14日、佐賀大本庄キャンパスであった。岩手大の船場ひさお特任准教授が、地域での暮らしを体験するインターンシップを通じ、若者の地元定着につなげた取り組みを紹介。大学・短大生の地元就職率を高めるには、地域ぐるみで学生を受け入れることが大事と呼び掛けた。

地域を担う人材の育成に向け多様なインターンシップの事例を紹介する岩手大の船場ひさお特任准教授＝佐賀大本庄キャンパス

船場准教授は基調講演で、東日本大震災以降、地元に貢献したいと思う学生が増えている現状を示し「岩手は中小企業が多く、アピールが不足している。首都圏の企業と人材を取り合ったら負けてしまう」と指摘した。その上で「インターンシップの対象者を3年生から1、2年生に早めてはどうか。職場体験だけでなく、地域主体で学生を受け入れる機会を設けることが大切」と訴えた。

多様なインターンシップ制紹介

船場准教授は具体例として、学生がインターンシップで岩泉町の農家と交流して、道の駅で販売する商品のポップ広告を作った事例を紹介。「町の産業全体を体験することで、町のファン作りにつながった。若者がそこで暮らすことを考えてみる機会にもなった」と話した。課題にも触れ「細やかな受け入れ態勢が必要で、いかに地元のコーディネーターを育成していくかが大事」と指摘した。

シンポジウムには、地元企業や就職活動を控えた大学生ら約100人が出席した。（尼寺宏輔）

■「さがを創る大交流会」開催決定

H29/11/16　佐賀新聞

県内150社 地元就職をPR

23日に「大交流会」

佐賀県内の企業や自治体など約150社・団体が、それぞれの取り組みを大学生、短大生に紹介する「さがを創る大交流会」が23日午後1時から、佐賀市の県総合体育館で開かれる。佐賀大学など産学官で大学生の地元就職率向上に取り組む「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が主催する。入場無料。

情報通信（IT）や流通、金融など幅広い分野から企業が参加する。県や市町、教育機関なども加わり、2月に初めて開いた交流会から参加社・団体は倍増した。県内の大学、短大に通う全ての学生が対象。

就職活動に向けたメーキャップ講座やスーツ選び講座、インターンシップ（就業体験）の相談会もある。佐賀大や西九州大、JR佐賀駅と会場とを結ぶ無料バスを運行する。

自由な服装での参加を呼び掛けている。問い合わせは佐賀大地域創生推進センター、電話0952（28）8371。（江島貴之）

■「さがを創る大交流会」開催

H29/11/24　佐賀新聞

地元就職の魅力 1200人にPR

メーク講座など盛況

佐賀市

佐賀県内の企業や自治体約150社・団体が取り組みなどを紹介する「さがを創る大交流会」が23日、佐賀市の県総合体育館で開かれた。県内の大学生、短大生1200人が訪れた。地元での就職活動の参考にしたり、メークやマナー講座など就活への心得などを学んだりした。

県内の企業や自治体約150社・団体が出展した「さがを創る大交流会」＝佐賀市の県総合体育館

150企業・団体　大学生らと大交流会

交流会は、地元就職率の向上などに取り組む「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が主催。県内の大学、短大に通う全ての学生を対象に開かれた。IT や流通、金融など幅広い分野の企業、県や市町、教育機関も出展した。各ブースでは、取り組みや魅力の紹介があり、学生たちはメモを取るなどして熱心に耳を傾けていた。佐賀大学理工学部2年の隈部哲さん(20)は「社会人と話す機会が少なかったのですごく新鮮だった。企業を身近に感じ、就活への現実味も出てきた」と話していた。

イベントコーナーでは、メーキャップやマナーなどの講座もあった。就活に合ったメーク法を紹介する講座では、立ち見の学生が数多く出る人気ぶりだった。メークモデルとなった同大芸術地域デザイン学部2年の玉江紗央理さん(19)は「メークの工夫一つで、がらりと印象が変わると実感できた。意識して実践していきたい」と関心を示していた。

学生間交流を促す「しゃべり場」も実施された。訪れた学生に「佐賀の一押し」や「佐賀の魅力」を紙に書いてもらい、佐賀の未来などについて語り合った。（南和典）

■「さがを創る大交流会」開催

H29/12/19　西日本新聞

学生と地場企業 交流
就活体験談やマナー教室　佐賀市

県内の大学・短大生に地場企業や自治体の魅力を紹介する「さがを創る大交流会」が11月23日、佐賀市日の出1丁目の県総合体育館であり、約千人が参加した。

大学や自治体、経済団体、企業でつくる「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が地元での就職を促すため開催した。食品製造や情報通信、NPO法人など153の事業者や機関が出展。就職活動のマナーやスーツ選び、インターンシップ（就業体験）の相談を受けるコーナーも設けた。内定者が就職活動を語る催しでは「自分が企業にとっていかに有益であるかPRすべきだ」「アルバイトの内容よりも学んだことや考えたことを話した方がいい」と助言した。

佐賀大大学院工学系研究科1年の小林拓馬さん(23)は「県内での就職を希望しており、自分の研究分野に縛られずいろんな企業を回りたい」と話した。

（梅本邦明）

企業担当者の説明を聞く学生たち

■ スマホソフト佐賀大学生が開発　オプティムと提携

H29/12/21　佐賀新聞

スマホソフト 佐大生が開発
オプティムと提携

佐賀大学（佐賀市）の学生40人が、イベントの参加人数や属性を管理するスマートフォン向けソフトを開発した。同大に本店を置くシステム開発オプティムと提携した一般教養科目の一環で、情報技術（IT）を使ってアイデアを形にする力を実践形式で養った。

専用のQRコードからダウンロードし、参加者の名前やメールアドレスなどを入力する仕組み。同大で開かれた企業説明会で導入した。誰がどの企業を回ったかを把握するため、ブースごとにスマホでスタンプを集める機能も搭載した。

従来は手書きのアンケートで情報を集約しており、主催団体は「学生の動きが分析しやすく、企業にも還元できる内容が集まった」と評価した。

半年前から取り組んできた農学部3年生の西村美樹さん(20)は「情報の活用法を想定し、みんなでプログラミングしたデータを集約した。作動したときは達成感を覚えた」と話した。

（上田麻美）

オプティムとの提携授業で開発した情報管理ソフト

◆ 平成29年度　自己点検評価結果

①　COC+大学（佐賀大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

佐賀大学による本事業の進捗状況及び成果で述べているように、佐賀大学地域創生推進センターによる事業の統括、学部・キャリアセンター等による全学的な取り組み、特に「2017さがを創る大交流会」の開催によるオール佐賀での取り組みの強化により、本事業を強力に推進することができた。企業情報の収集、理工系・農学系の学部による産学連携による雇用の創出・拡大等の取り組みが着実に進展している。しかしながら、全国的な就職状況の向上もあり、地元就職率及び正課インターンシップ参加者数の面で、成果指標の達成に課題があるが、全体としては、自己評定は「Ⅲ：おおむね順調に進んでいる」とする。

②　COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

参加校による本事業の進捗状況及び成果で述べているように、それぞれの特性に応じたキャリア教育、地域志向教育、及び産学連携の推進に向けた企画と着実な実践が進展した。自己評定は「Ⅲ：おおむね順調に進んでいる」とする。

③　COC+大学（佐賀大学）・COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）の連携による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

事業協働機関による本事業の進捗状況及び成果で述べているように、さが地方創生人材育成・活用協議会に設置した教育プログラム開発委員会及び委員会に設置したワーキンググループの活動等により、大学間の連携が進み、特に「2017さがを創る大交流会」の開催によるオール佐賀での取り組みの強化により、本事業を強力に推進することができた。自己評定は「Ⅲ：おおむね順調に進んでいる」とする。

④　事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

事業協働機関による本事業の進捗状況及び成果で述べているように、総会・幹事会・シンポジウム・FD 研修会などを実施し、特別講義の講義担当など、事業協働体としての取り組みが強化された。特に「2017 さがを創る大交流会」の開催によるオール佐賀での取り組みの強化により、本事業を強力に推進することができた。自己評定は「Ⅲ：おおむね順調に進んでいる」とする。

⑤　事業の内容についての社会への発信・情報公開について

佐賀大学及び参加校による本事業の進捗状況及び成果で述べているように、合同シンポジウム・FD 研修会の開催、Newsletter の発行、ホームページ及び Facebook での情報公開、新聞報道等を通して、積極的な情報の公開と発信を行ったことから、自己評定は「Ⅲ：おおむね順調に進んでいる」とする。

⑥　COC+大学（佐賀大学）における補助金の執行状況について

ほぼ計画通りに適正に執行されていることから、自己評定は「Ⅲ：適正に執行されている」とした。

⑦　COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）における補助金の執行状況について

ほぼ計画通りに適正に執行されていることから、自己評定は「Ⅲ：適正に執行されている」とした。

総合評価

①～⑦までの自己点検評価結果、及び文部科学省による中間評価結果を踏まえ、本事業の総合評価は「Ⅲ：おおむね順調に進んでいる」とした。

参 考 資 料

平成28年度　外部評価結果報告書

1　項目ごとの評価・評定

① COC+大学（佐賀大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント）
KPIの設定に苦労する大学が多い中で、体制を整備して良くできている印象がある。ただし、自己点検報告書の記載内容とKPIの成果との関係性が希薄で、どの部分がKPIにつながる成果なのかわからない。定量的な指標で評価するためには、細かなKPIの設定による分析に基づいたアクションプログラムの構築を検討することも重要であろう。
今後はKPIを学部・学科の特徴に応じて細かく設定し、重点的に取り組む学部・学科を設定すべきであろう。

② COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント）
PBL型のインターンシップは、学生の能力向上や企業への親近感の高まりに結びつき、採用に直接結びつくため有効である。
プログラムの方法や定着の手法がはっきりすれば、具体的なアクションにつながっていくことが期待されるが、主幹校の佐賀大学とその他の大学・短大の間で、習熟度の差や温度差が見受けられる点が課題である。

③ COC+大学（佐賀大学）・COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）の連携による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント）
インターンシップ科目を共通化して、単位互換できるようなCOC絡みの連携が見られると良い。参加校が一方的に情報をもらうような形ではなく、参加校すべてがシナジー効果を最大限に発揮できるような連携プログラムをも考えていくと良いであろう。

④ 事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅱやや遅れているとする
（コメント）
協議会は参加企業数が多いものの、流通業・小売業が入っていない。権威付けの体制としては成立しているが実働が伴っていない。参加大学の取り組み状況が連携企業に反映されていない印象があり、業種ごとに課題を議論する分科会・WGが無いと進まないと考えられる。

⑤ 事業の内容についての社会への発信・情報公開について

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント）
地域のためであり、地元企業のためであり、学生のためである事業であるので、それぞれにPRしていくべきである。うまく学生を事業で活用して、その成果を就職対象の企業等へ情報発信することも必要である。また、情報発信の流れが一方通行になりがちであるので、受け取った側がどう捉えたかを含めて情報発信などを検討されたい。

⑥ COC+大学（佐賀大学）における補助金の執行状況について

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント）
補助金は、選定された取組における教育活動に係る経費であるため、補助事業とそれ以外の大学の活動との間に明確な区分けが必要であることには、引続きご留意頂きたい。

⑦ COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）における補助金の執行状況について

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント）
補助金は、選定された取組における教育活動に係る経費であるため、補助事業とそれ以外の大学の活動との間に明確な区分けが必要であることには、引続きご留意頂きたい。

総合評価

→評定結果：Ⅲおおむね順調に進んでいる
（コメント：総評・統括）
全体としておおむね順調に進んでいるが、②と⑤はⅡに近いⅢであるため、今後の改善が望まれる。学部・学科の特徴に応じた細かなKPIの設定やPBL型インターンシップを導入して、地域貢献や就職率の向上に励んで頂きたい。また、学生ならではの新しい発想による企業の活性化にも期待したい。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）　中間評価結果

整理番号	36	COC+大学名	佐賀大学
事業名	さが地方創生人材育成・活用プロジェクト		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

＜優れている点＞

・地域志向キャリア教育を進めるにあたり、単にキャリア教育科目を設置するといった狭義の取組だけでなく、これからの大学教育の在り方や企業・地域と大学教育の相互乗り入れの在り方を考え、「職業統合的学習（WIL：Work Integrated Learning）」に概念化しようとしていることは高く評価できる。

・佐賀大学での学内ガバナンス体制の整備がなされ、評価できる。

・COC+参加校、とりわけ西九州大学において事業の着実な進行が示されており、高く評価できる。

・「佐賀版キャリアデザイン」の受講を通して、佐賀県就職希望者が 1.5 倍になるなどの効果があがっていることは評価できる。

＜改善を要する点＞

・インターンシップ教育等において、民間企業との関係強化に一層努めることが必要である。

2017さがを創る大交流会アンケート結果

※一部抜粋

学生アンケート

1. 参加者について

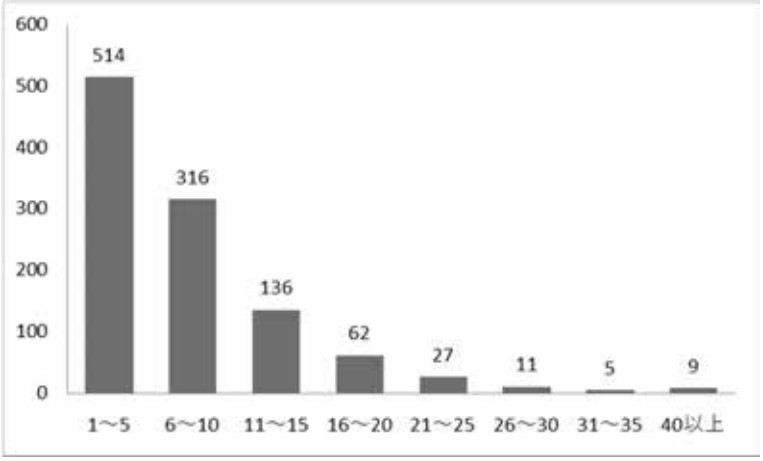
学生参加者総数	アンケート回収数	回収率
1,242名	1,137	92%

【内訳】

大学名	学部・学科	学年						小計	学校計
		1	2	3	4	無回答	他		
佐賀大学	教育学部		15		1		1	17	
	文化教育学部			61	7		3	71	
	芸術地域デザイン学部	5	31					36	
	経済学部	63	98	80	7		1	249	
	経済学研究科	1						1	
	理工学部	50	186	132	4		1	373	
	工学系研究科	6	1			1		8	
	農学部	44	56	51	2			153	
	農学系研究科	3	2					5	
	無回答	1						1	914
西九州大学	健康栄養学科	23		1				24	
	社会福祉学科	16						16	
	リハビリテーション学科・理学療法学専攻	24						24	
	リハビリテーション学科・作業療法学専攻	4						4	
	子ども学科	27	1				1	29	
	心理カウンセリング学科	11		2			1	14	111
九州龍谷短期大学	人間コミュニティ学科	15						15	
	保育学科	7						7	
	保育学科３年コース	1						1	23
佐賀女子短期大学	地域みらい学科	85						85	
	その他						2	2	87
その他	その他						2	2	2
小計		386	390	327	21	1	12	1137	1137

2. 訪問ブース数

訪問ブース総数	回答数（人）	平均訪問ブース数
8,315	1,137	7.3ブース／人



学生参加者の平均訪問ブース数は7.3ブース。

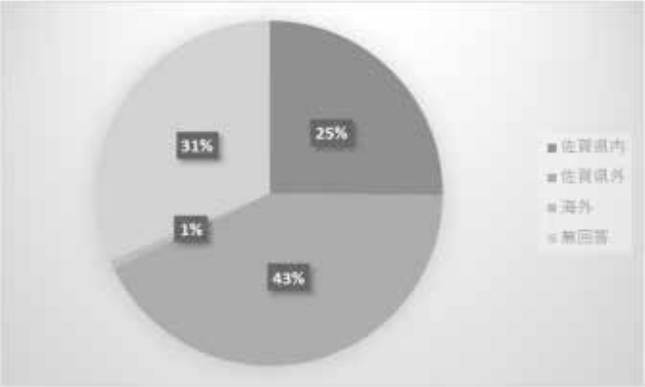
スタンプラリーの効果もあると思われるが、11ブース以上回っている学生も250名と多く、結果として複数の機関の情報を伝えることができた。

訪問ブース数0の学生は57名で、システムの問題であることが考えられる。

3. アンケート結果

Ｑあなたの出身地を教えてください

ａ）佐賀県内　ｂ）佐賀県外　ｃ）海外



学生の集客活動の効果もあり佐賀県外出身者の学生も多く参加していた。

また、出展機関の内、31機関が留学生の採用可であったが留学生の参加が1%（9名）と少なかった。留学生への周知が次回の課題となった。

Ｑあなたは仕事にどんなことを求めますか？　（複数回答可）

ａ）自分の夢のために働けること　ｂ）プライドが持てる仕事ができること　ｃ）楽しく働けること
ｄ）満足できる収入が得られること　ｅ）自分の長所が活かせること　ｆ）その他

1.	楽しく働けること	493人
2.	満足できる収入が得られること	448人
3.	自分の夢のために働けること	349人
4.	自分の長所が活かせること	254人
5.	プライドが持てる仕事ができること	150人
6.	その他	29人
7.	無回答	355人

参加学生の意識は①楽しく働けること　②満足できる収入が得られること　③自分の夢のために働けること　の順となっている。今後は、より多くの機関を学生に紹介するとともに機関は「楽しく働ける環境作り」に力を入れることが重要である。

Ｑ希望する就職先の職種は？（複数回答可）

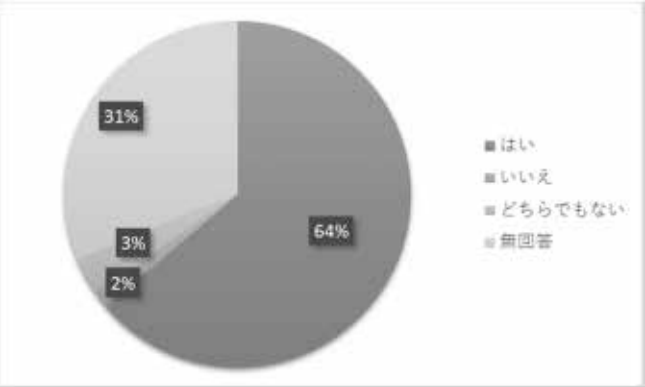
ａ）営業職　ｂ）技術職　ｃ）事務職　ｄ）企画・開発職　ｅ）研究職　ｆ）その他

1.	企画・開発職	323人
2.	技術職	287人
3.	事務職	240人
4.	営業職	167人

5.	研究職	150人
6.	その他	170人
7.	無回答	354人

Ｑ交流会に参加して以前より県内企業、自治体、団体などの活動を知ることができましたか？

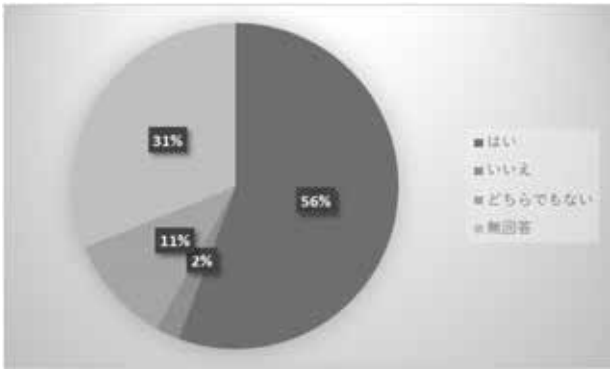
ａ）はい　ｂ）いいえ　ｃ）どちらでもない



回答者の64%が「以前より情報を得られた」と回答しており、本交流会が学生にとって、県内機関の活動を伝える場となったことが分かる。

Ｑ交流会に参加して以前より佐賀に魅力を感じましたか？

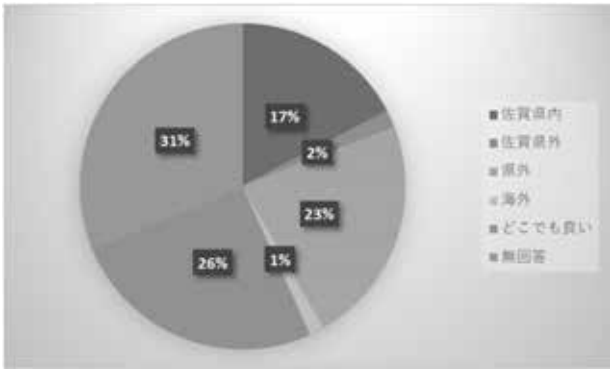
ａ）はい　ｂ）いいえ　ｃ）どちらでもない



回答者の56％が「以前より佐賀に魅力を感じた」と回答しており、本交流会が学生に佐賀県の魅力を伝える場となったことがわかる。

Ｑ卒業後はどこに就職したいと思いますか？

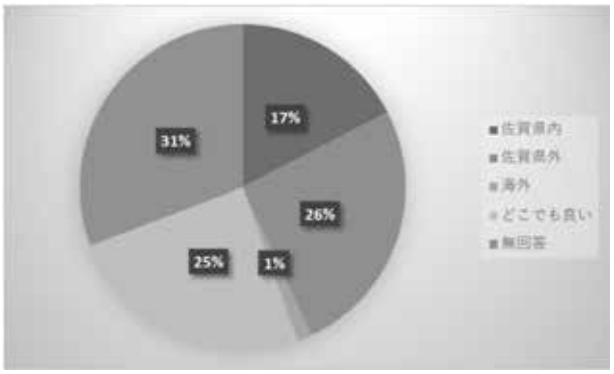
ａ）佐賀県内　ｂ）佐賀県外　ｃ）海外
ｄ）どこでもいい



回答者の26％が就業場所を地域に限定していないとあり、県内機関の魅力をさらに伝えること、魅力ある機関に成長することが重要と思われる。

Ｑ卒業後はどこに住みたいと思いますか？

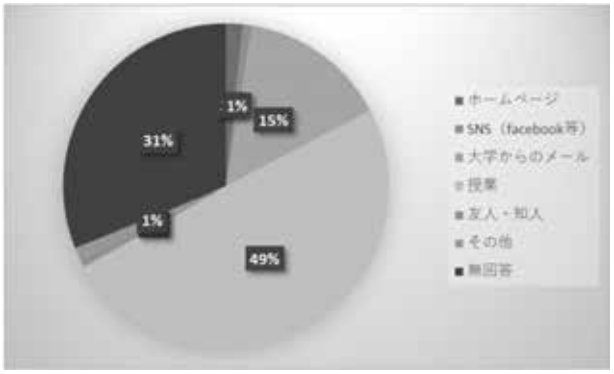
ａ）佐賀県内　ｂ）佐賀県外　ｃ）海外
ｄ）どこでもいい



26％が県外を希望し、25％が特にこだわっていない。今後とも就職先と併せて佐賀の住みやすさをより向上させることも重要だと思われる。

Ｑ交流会が開催されることをどこで知りましたか？

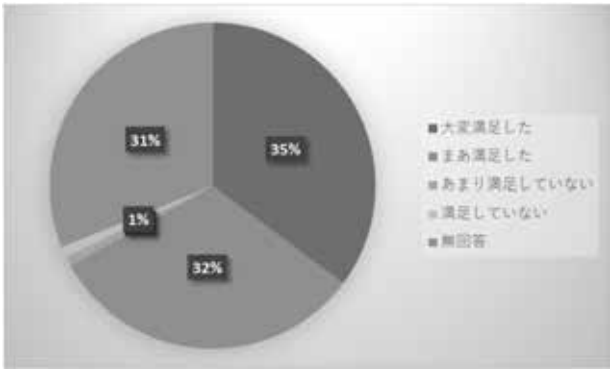
ａ）ホームページ　ｂ）ＳＮＳ（facebook等）
ｃ）大学からのメール　ｄ）授業
ｅ）友人・知人　ｆ）その他



インターフェース関連授業での呼びかけによる直接的な学生へのＰＲや教員の協力依頼が効果的であった。

Ｑ大交流会は満足できる内容でしたか？

ａ）大変満足した　ｂ）まあ満足した
ｃ）あまり満足していない
ｄ）満足していない



回答者の67％が交流会に「大変満足した」、「まあ満足した」と回答した。交流会後の学生の意識の変化からみてもこの交流会の満足度が高かったことがわかる。

Ｑ良かったイベントは？（複数回答可）

ａ）メイクアップ講座　ｂ）スーツ選び講座
ｃ）マナー講座　ｄ）サークル活動紹介
ｅ）ミニ講演会　ｆ）キャリア相談学生交流会

1	メイクアップ講座	93
2	ミニ講演会	92
3	マナー講座	85
4	キャリア相談学生交流会	78
5	スーツ選び講座	64

社会人への準備としてのメイクアップ講座、マナー講座、スーツ選び講座などに加え「ミニ講演会～考えてみよう！～佐賀で働く、佐賀で暮らす」が人気であった。

Q次回の交流会に参加してほしい企業・団体や実施してほしいイベント、その他意見・感想をお願いします。

１）次回出展を希望する企業、団体

機関名		
(株)東芝	ＪＲ九州旅客鉄道(株)	(株)カラー
トヨタ自動車(株)	西日本高速道路(株)	(株)ダダビ
キャノン(株)	(株)名村造船所	(株)久原本家グループ
味の素(株)	西日本プラント工業(株)	昭和自動車(株)
カルビー(株)	日本タングステン(株)	祐徳自動車(株)
キューピー(株)	(株)Cygames	(株)九州電力
(株)杉養蜂園	日本マイクロソフト(株)	JICA
清水建設(株)	(株)パソナテック	佐賀労働局
(株)三井住友銀行	(株)DHC	佐賀県農業協同組合
(株)福岡銀行	(株)プルーム	鳥栖市
ＮＴＴ（日本電信電話(株)）	東洋プロダクト(株)	多久市

２）次回出展を希望する業種

業種	備考
IT・情報・通信	電気通信会社
	IT企業
	放送系の技術関係（カメラなど）
	音楽系の企業・団体
建設・土木・設備	建築関係の企業
	建設会社
機械製造	自動車関係の企業
食品製造	食品製造の企業
一般製造	印刷業
	出版社
	製薬会社
	食品サンプル業界
	薬品・化粧品会社
	セラミック関連の企業
	文具関連の企業
	デザイン系の企業（デザイン・印刷）
自治体・団体	図書館（司書）
	児童相談所などの教育団体
	今回出展していない自治体
	博物館など（学芸員）
	公務員関係
幼稚園・保育園・福祉施設	福祉関連の企業
	幼稚園、保育園
	障がいを持った方のサポートや、勉強を教える団体

業種	備考
金融・保険・証券	保険会社
運輸・サービス	カード会社
	旅行会社
	警備関係
	観光業
	不動産関係の企業
	サービス業の企業
	ホテル業界
	航空会社
	運送系の企業
	スポーツ系の企業
その他	栄養士
	医療関係
	農業関係の企業
	電機系
	電気電子工学
	鳥栖付近の企業
	研究・開発系の企業
	技術開発系
	事務系
	個人経営
	農家
	佐賀にある大手の企業

３）改善要望

ａ）出展機関への要望

- 各ブースに新卒の人を置いて欲しい。
- こちらから積極的に話しかけるのは少し勇気がいるので、企業から声をかけてもらえると嬉しい。
- どの企業も、もっと具体的な職務内容や就活のためにすべきことなどを教えて頂きたいです。
- 商品をもっとPRしてくれた方が企業について理解できると思った。業務内容だけでは企業のイメージが湧かない。
- 企業の雰囲気よりどういう仕事をしているかとかもっと具体的な事を知りたかった。
- 食品の販売・製造ばかりでなく、技術職（研究職）についてもっと知りたい。
- 就職後の良い点と悪い点どちらの説明も平等に説明してもらいたいです。
- 実際に技術職で働いている方のお話をもっと聞きたかった。
- 仕事の疑似体験ができる所が欲しい。

ｂ）主催者側への要望

■ 会場・設備

- 企業ブースが少し狭かった気がします。もっと広くスペースをとったらゆとりをもってお話を聞くことができると思う。
- 会社だけではわからない点も多いので募集する部門も提示してほしい。
- 立ちっぱなしできつい場面があったので、椅子に座りながら説明を聞きたいと思った。
- イベントブースでは隣の音でこちらのブースの音が聞こえないことがあったので、ブースを離してほしい。
- イベント会場をもう少し広くしてほしい。

■ イベント内容

- メイク講座が実際に体験できるブースがあればもっと良かったと思う。
- 就活が近づいているため、面接や履歴書関係（ES）の講座があればいいなと思った。
- 就活時のマナーを知りたい。
- 発表会がもっとあると面白いと思う。
- イベントとして、ブラック企業に就職してしまった際にどうするべきか教えて頂ける講座の実施を希望する。

■ 運営

- 出席確認がわからなかった。学校のポータルサイトからレポート提出のようにいつもと同じにしてほしい。
- 開始時間を午前からにしてくれると、もっと参加しやすいと思う。
- 福岡県でのインターンシップ説明会と開催日が同じだったので、日程を被らないようにしてほしい。
- 魅力ある企業が数多くあったため、イベントに参加することができなかったのが残念だった。
- あまり世間に名前が広まっている訳では無いが高度な技術で日本を支えている企業を知るきっかけとなるように、そのような企業のブースを増やすと良いと感じました。
- 企業のＰＲのところで、デメリットの部分を記入してほしいと感じた。
- さらに多くの企業を招いて、大きな規模のものになれば、来場者も増加し、県外からも興味を持った人が足を運ぶのではないかと考えた。
- イベントと企業を回る時間を別々に設けてほしかったです。
- メールで学生へ、バスの出発時刻を知らせて欲しかった。
- 出席が関わっているなど半ば強制的に参加させられたように感じたので、もう少し気持ちよく参加させてほしい。
- ピストン輸送のバスの発車が遅く、自転車で来た方が良かったのではないかと感じた。

４）感想

- 普段は知ることの出来ない企業の姿がみられて、とても良いイベントだと思った。
- 食品関係以外の企業があって色々な職業の事を知れたので参考にし、これからの事に活かしていきたい。
- 普段なかなかこういう話を聞ける機会はないと思うのでとてもためになった。
- 色々な企業を見れて、佐賀のことが少しわかったと思う。
- 佐賀にある企業について、あまり知識がなかったのですが、今日の「さがを創る大交流会」で佐賀の企業について多く知ることができて大変良い経験になった。
- 製造工業がグローバル化していることがわかった。
- 積極的に企業の方から声をかけられていて、企業側の意気込みをとても感じた。
- 今まで知らなかった企業について知れたので良かった。県内で就職したいと思っているのでいい機会になった。
- 沢山の企業の話を聞くことができたのでこれからの就職活動に役立てたいと思った。
- たくさんの企業が一つの場所に集まることは凄いことだと思う。それに無料で参加できたのでこれからも開催してほしいと思った。
- 幅広い分野の企業説明を聞くことで今後の就活に活用したり、自分の行きたい企業の幅が広がりとても充実した時間になった。
- 自分が興味を持っている業界以外の企業のお話をお伺いでき、これからの就活に活かしていきたいと思った。
- 様々なジャンルの企業からの話はとても刺激になり将来の選択肢を増やすことができました。
- あと一年半で就職なのでまだ全然企業について知らなかったけど、今回の講演を聞き意識が変わった。
- インターンシップに行くにも候補が多すぎてどこに行けばいいかわからなかったが、今回のイベントである程度の目安をつけることができた。とても良いイベントだったと思う。
- 興味のあった食品関連のブースを見て回った。普段こういった機会が無かったので大変ためになった。

出展者アンケート

1. 出展機関業種内訳（153機関）

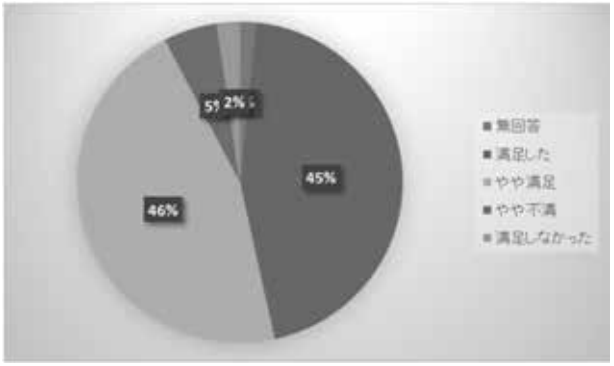
業　　種	機関数	業　　種	機関数	業　　種	機関数
自治体	12	一般製造	24	流通・卸・小売	12
ＮＰＯ・団体	24	建設・土木・設備	17	サービス	7
機械製造	19	ＩＴ・情報・通信	15	幼稚園・保育園・福祉施設	8
食品製造	10	金融・保険・証券	5		

2. 出展機関アンケート回収率

出展機関：総数	アンケート回収数	回収率
153	132	86.3%

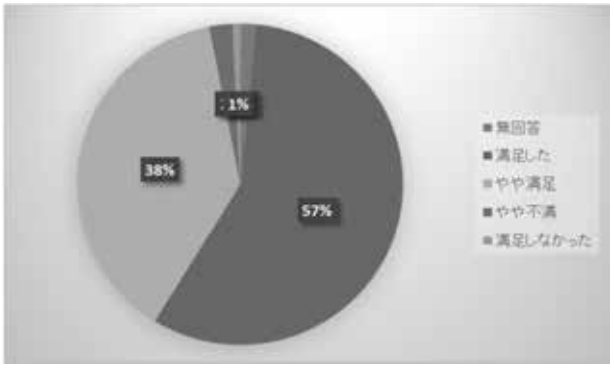
3. アンケート結果

Ｑ今回の交流会について以下の項目の満足度について教えてください。
Ｑ定住促進に向けた佐賀の魅力発信する場として
１．満足した　　２．やや満足　３．やや不満　　４．満足しなかった



定住促進に向けた佐賀の魅力を発信する場として91%の出展機関が「満足した」、「やや満足」と答えており、一定の満足感があったと考えられる。

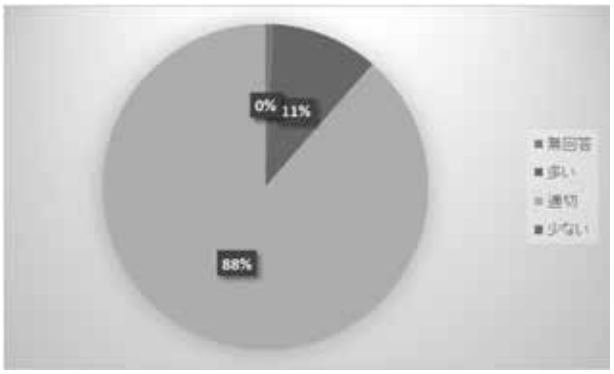
Ｑ地元就職拡大に向けた佐賀県内機関の発信の場として
１．満足した　　２．やや満足　　３．やや不満　　４．満足しなかった



地元就職拡大に向けた佐賀県内機関の発信の場として95%の出展機関が「満足した」、「やや満足」と答えており、一定の満足感があったと考えられる。

Ｑ今回の交流会の出展機関数は適切でしたか。

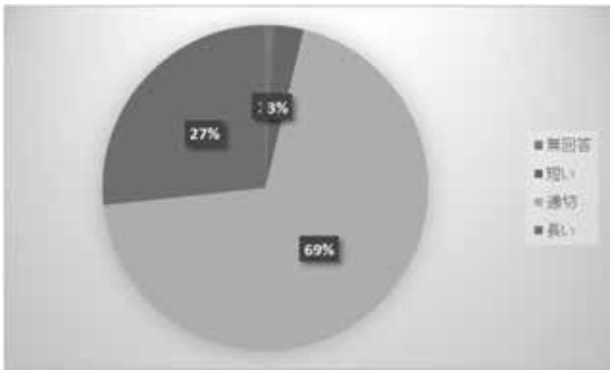
１．多い　　２．適切　　３．少ない



出展機関の88％が今回の出展数（155ブース）が「適切」であると答えている。

Ｑ今回の開催時間（3時間30分）は適切でしたか。

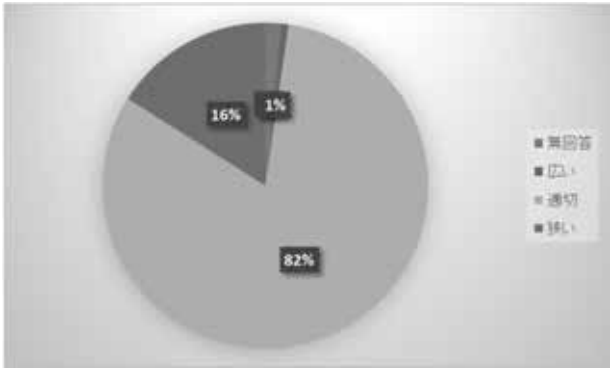
１．短い　　２．適切　　３．長い



開催時間は69％が「適切」と答えており、学生アンケート結果でも59％が「適切」と回答していることから次回も同程度の開催時間が妥当だと考えられる。

Ｑ出展ブースの広さは適切でしたか。

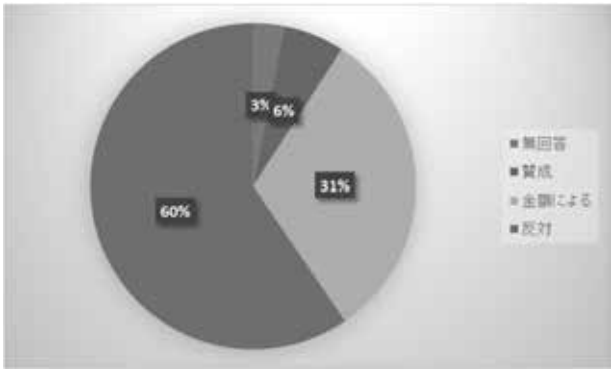
１．広い　　２．適切　　３．狭い



出展受付時に持込み物品の制限を行ったこともあり、次回以降は制限緩和のためブースの広さを検討する必要がある。

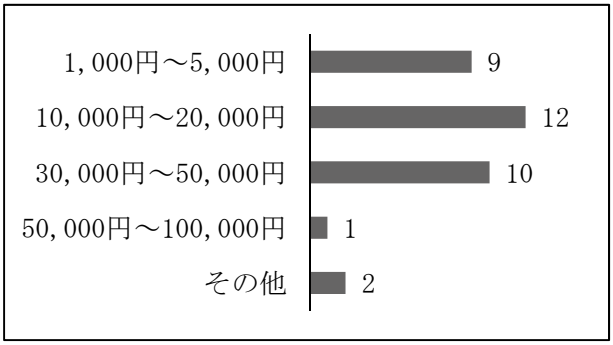
Ｑ交流会への出展の有料化についてどう思いますか。

１．賛成　　２．金額による　　３．反対



交流会の有料化については60％が「反対」回答した。交流会の実績（認知度）をあげることが優先される。また、有料化した場合もNPO・団体等には特別措置を検討する必要があると考えられる。

→１、２に回答した方にお尋ねします。
金額はいくらぐらいが適当だと思われますか？



Ｑ今後の交流会への期待・要望や改善してほしい点があればご記入ください。

１）改善要望

・ガイドブックの自治体紹介のフォーマットを改善してほしい。
・企業ブースをもっと目立つ位置に配置してほしい。
・“サガしる”の動作不具合（ＱＲコードが読み取れない、カウンターが動かない）を改善してほしい。
・中央ステージをもっと目立つようにしてほしい。
・学生の情報(学部・学年など）学生の求める業種を分けてほしい。
・ブースも少し狭いと感じた。(特に幅が)
・マップだけでなくブースにも社名の横に業種を入れてほしい。
・ＱＲコード目的の学生が多かった印象を受けた。
・ライティング(照明）をもう少し明るくしてほしい。
・ブースの前に2～3個の椅子を置くことが出来れば説明しやすい。
・継続的な開催をお願いしたい。
・留学生の参加を増やしてほしい。
・今後は、もっと出展機関を増やしてほしい。（200機関くらい）
・企業同士、市民活動団体と企業などの交流の時間をセットしてほしい。
・平日開催をお願いしたい。
・業種別の配置についてはローテーションを望む。
・有料化されるのであればエントリーシート等の提出は必須でお願いしたい。
・当日使用する機材を会場へ送付できると良かった。

２）感想

・学生に直接ＰＲする場を設けてもらった。
・学生と意見交換ができ非常に役に立った
・地元の企業を知るという意味で、大変良い機会だった。
・たくさんの方に来場してもらいとても良い機会になった。
・非常に活気のあるイベントだった。
・多くの学生がブースへ足を運んでくれた。
・会社ＰＲもでき興味をもってくれた学生も数名みつかった。大盛況だった。

◆ 関連規則集

さが地方創生人材育成・活用推進協議会設置要項

（平成２８年２月２０日制定）

（設置）
第１条　地（知）の拠点大学による地方創生事業（以下「ＣＯＣ＋」という。）で取り組む大卒者の地元定着率の向上及び雇用の拡大・創出を推進することを目的として，ＣＯＣ＋事業協働機関に「さが地方創生人材育成・活用推進協議会（以下「協議会」という。）」を置く。
（事業）
第２条　協議会は，第１条の目的を達成するため，次の各号に掲げる事業を行う。
(1) 大卒者の地元就職率向上に関する事業
(2) 地元雇用の拡大，及び雇用の創出に関する事業
(3) 地域を担う人材育成に関する支援・協力事業
(4) その他ＣＯＣ＋の目的達成に必要な事業
（組織）
第３条　協議会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1) 別表１に掲げる各機関の長
(2) その他協議会が必要と認める者
（役員）
第４条　協議会に，次に掲げる役員を置く。
(1) 会長
(2) 副会長
２　会長及び副会長は，委員の互選とする。
３　会長は、協議会を招集し，その議長となる。
４　副会長は，会長を補佐し，会長に事故があるときはその職務を代行する。
（審議事項）
第５条　協議会は，次に掲げる事項を審議する。
(1) 第２条に掲げる事業の基本方針等に関すること
(2) 協議会の運営に関すること
(3) 協議会の入退会に関すること
(4) その他協議会の運営に必要な事項
（構成員以外の者の出席）
第６条　協議会は，必要に応じ構成員以外の者の出席を求め，その意見を聴くことができる。
（議事）
第7条　協議会は，委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。
２　議長は，会長をもって充てる。
３　委員が，会議に出席できないときは，代理者を出席させることができる。
４　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは議長の決するところによる。
（幹事会）
第８条　協議会に，ＣＯＣ＋事業を企画・立案し，及び推進するため，幹事会を置く。
（構成）
第９条　幹事会は，次の各号に掲げる委員をもって構成する。
(1)　協議会の機関から選出された者　　若干名
(2)　幹事会が必要と認めた者
２　前項第１号の委員の任期は２年とし，再任は妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第１０条　幹事会に委員長を置く。
２　委員長は，委員の互選とする。ただし，再任は妨げない。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
（審議事項）
第１１条　幹事会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 大卒者の地元就職率向上に関する事業の企画・立案
(2) 地元雇用の拡大，及び雇用の創出に関する事業の企画・立案
(3) 地域を担う人材育成に関する支援・協力事業の企画・立案
(4) その他ＣＯＣ＋事業に必要な事項
（専門委員会）
第１２条　幹事会に前条に掲げる事業の具体的な検討等を行うため，専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関し，必要な事項は幹事会が別に定める。
（入退会）
第１３条　協議会への入退会は，協議会の承認を得るものとする。
（各機関の事務）
第１４条　協議会，幹事会及び専門委員会等に関する連絡，調整及び報告等に関する事務を行うため，各機関に事務担当者を置く。
（事務）
第１５条　協議会及び幹事会に関する事務は，佐賀大学（ＣＯＣ＋大学）内に置く。
（雑則）
第１６条　この要項に定めるもののほか，協議会の運営に関し必要な事項は，協議会が別に定める。

附　則
この要項は，平成２８年２月２０日から実施する。
附　則（平成２８年７月２７日改正）
この要項は，平成２８年７月２７日から実施する。
附　則（平成２９年７月１１日改正）
この要項は，平成２９年７月１１日から実施する。

国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター規則

（平成２７年１２月２５日制定）

（趣旨）
第１条 この規則は，国立大学法人佐賀大学基本規則（平成１６年４月１日制定）第１２条の２の規定に基づき，国立大学法人佐賀大学（以下「本法人」という。）に置く国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第２条 センターは，本法人が地域とともに未来に向けて発展し続ける地（知）の拠点大学として実施する地域を志向した教育・研究・社会貢献活動の充実発展に寄与することを目的とする。
（業務）
第３条 センターは，次に掲げる業務を行う。
(1) 地域を志向する教育・研究・社会貢献の企画・推進に関すること。
(2) 地域を志向するキャリア教育の企画・推進に関すること。
(3) 雇用の創出・拡大に関連する社会貢献の企画・推進に関すること。
(4) 生涯学習に関連する企画・推進に関すること。
(5) その他センターに関すること。
（部門）
第４条 センターに，第２条に掲げる目的を達成するため，部門を置くことができる。
２ 部門に関し必要な事項は，別に定める。
（組織）
第５条 センターに，次の職員を置く。
(1) センター長
(2) 副センター長 ２人
(3) 併任の教員
(4) 第８条に規定する特任教員 ２人
(5) その他センター長が必要と認めた者 若干人
（センター長）
第６条 センター長は，理事（研究・社会貢献担当）をもって充てる。
２ センター長は，センターの業務をつかさどり，センター所属の職員を統督する。
（副センター長）
第７条 副センター長は，理事（教育・学生担当）及び産学・地域連携機構地域連携部門長をもって充てる。
２ 副センター長は，センター長の職務を補佐し，センターの業務を掌理する。
（コーディネーター）
第８条 センターに，地域創生人材育成コーディネーター及びキャリアデザイン・コーディネーターを置き，センターの特任教員をもって充てる。
（特任教員の選考）
第９条 特任教員の選考は，第１１条に規定する運営委員会の議を経て，学長が行う。
（併任の教員）
第１０条 併任の教員の選考は，センター長及び所属部局長の推薦に基づき，次条に規定する運営委員会の議を経て，学長が行う。
２ 併任の教員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，併任の教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（運営委員会）
第１１条 センターに，国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２ 運営委員会は，次に掲げる事項を審議する。
(1) センターの事業実施の基本方針及び重要事項
(2) センターの教員の人事に関する事項
(3) センターの予算及び決算に関する事項
(4) その他センターの管理運営に関する事項
第１２条 運営委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。
(1) センター長
(2) 副センター長 ２人
(3) 文部科学省地（知）の拠点整備事業実施責任者
(4) 文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業実施責任者
(5) キャリアセンター長
(6) 産学・地域連携機構の教員 １人
(7) 全学教育機構高等教育開発室の教員 １人
(8) 第８条に規定する特任教員 ２人
(9) 学務部教務課長
(10) 学術研究協力部社会連携課長
(11) その他センター長が必要と認めた者 若干人
第１３条 運営委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。
２ 委員長は，運営委員会を招集し，その議長となる。
３ 委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
第１４条 運営委員会は，委員の過半数が出席しなければ議事を開き，議決をすることができない。
２ 運営委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。ただし，コーディネーターの人事に関する事項及び特に重要な事項については，出席した委員の３分の２以上の賛成を必要とする。
（意見の聴取）
第１５条 運営委員会は，必要に応じて，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（部門連絡会議）
第１６条 センターに，センターを具体的に運営・実施するための施策を企画・立案し，及び部門間の調整を行うため，部門連絡会議を置く。
２ 部門連絡会議に関し必要な事項は，別に定める。
（事務）
第１７条 センター及び運営委員会の事務は，学務部教務課及び就職支援課の協力を得て学術研究協力部社会連携課が行う。
第１８条 この規則に定めるもののほか，センターの組織及び運営に関し必要な事項は，別に定める。
附 則
この規則は，平成２７年１２月２５日から施行する。

国立大学法人佐賀大学地域創生推進センターＣＯＣ＋事業推進部門要項

（平成２８年１月１５日制定）

（設置）
第１　国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター（以下「地域創生推進センター」という。）に，地域創生推進センター規則第４条第２項の規定に基づき，地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「ＣＯＣ＋」という。）を推進するために，ＣＯＣ＋事業推進部門（以下「部門」という。）を置く。
（業務）
第２　部門は，ＣＯＣ＋事業である地域を志向した教育・研究・社会貢献に関する企画等を協議する。
（組織）
第３　部門は，次に掲げる構成員をもって組織する。
(1) 地域創生推進センター副センター長
(2) 各学部（理工学部を除く。），工学系研究科及び全学教育機構から選出された教員　各１人
(3) 地域創生推進センター地域創生人材育成コーディネーター
(4) 地域創生推進センターキャリアデザインコーディネーター
(5) その他地域創生推進センター副センター長が必要と認めた者　若干人
２　前項第２号及び第５号の構成員の任期は２年とし，再任を妨げない。
３　前項の構成員に欠員が生じた場合の後任の構成員の任期は，前任者の残任期間とする。
（部門長）
第４　部門に部門長を置き，地域創生推進センター副センター長のうち産学・地域連携機構地域連携部門長をもって充てる。
２　部門長は，部門の業務を掌理する。
３　部門長は，部門会議を招集し，その議長となる。
４　部門長に事故があるときは，部門長があらかじめ指名した構成員がその職務を代行する。
（構成員以外の者の出席）
第５　部門長が必要と認めたときは，構成員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（事務）
第６　部門会議に関する事務は，ＣＯＣ＋事業に関係する各課の協力を得て，学務部教務課が行う。
（雑則）
第７　この要項に定めるもののほか，部門に関し必要な事項は，別に定める。
附　則
１　この要項は，平成２８年１月１５日から実施する。
２　この要項施行後，最初に選出される第３第２号及び第５号の構成員の任期は，同第２項の規定にかかわらず，平成３０年３月３１日までとする。

教育プログラム開発委員会に関する要項

（平成２８年５月１１日制定）

（趣旨）
第１　さが地方創生人材育成・活用推進協議会設置要項第12条第2項の規定に基づき、教育プログラム開発委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２　委員会は，次に掲げる事項を審議する。
（1）地元就職率向上のための教育課程の編成に関すること
（2）地元志向型キャリア教育に関すること
(3) 共同FD・SDの企画に関すること
（4）地元企業等におけるインターンシップに関すること
（5）その他、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に関すること
（組織）
第３　委員会は，次に掲げる構成員をもって組織する。
（1）佐賀大学から選出された者　3人
(2) 西九州大学から選出された者　　2人
(3) 佐賀女子短期大学から選出された者　　2人
(4) 九州龍谷短期大学から選出された者　　2人
(5)その他委員会が必要と認めた者　若干人
（委員長）
第４　委員会に委員長を置き，委員会の互選により選出する。
２　委員長は，委員会を招集し、その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名した構成員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５　委員長が必要と認めたときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（事務）
第６　委員会に関する事務は，ＣＯＣ＋事業に関係する各大学の協力を得て，佐賀大学学務部教務課が行う。
（雑則）
第７　この要項に定めるもののほか，委員会に関し必要な事項は，別に定める。

附　則
この要項は，平成２８年５月１１日から実施する。

さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程

（平成２９年２月９日制定）

（趣旨）
第１条　この規程は，文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」におけるさが地方創生人材育成・活用推進協議会が自ら行う点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）及びその評価の結果の活用等並びにさが地方創生人材育成・活用推進協議会以外の者による検証（以下「外部評価」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　自己点検評価及び外部評価は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会が行う事業等の質的向上を図り，さが地方創生人材育成・活用推進協議会の運営全般の改善・改革に資するとともに，さが地方創生人材育成・活用推進協議会の理念及び目標・計画を達成し，社会からの負託に応えることを目的として実施する。

（自己点検評価）
第３条　さが地方創生人材育成・活用推進協議会に，自己点検評価を行うために，さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会（以下「自己点検評価委員会」という。）を置く。
２　自己点検評価委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（外部評価）
第４条　さが地方創生人材育成・活用推進協議会が行う事業等の外部評価を行うために，さが地方創生人材育成・活用推進協議会外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。
２　外部評価委員会は，自己点検評価の結果に関し外部評価を行うものとする。
３　外部評価委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（評価結果の報告，活用及び公表）
第５条　自己点検評価委員会は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会長に，自己点検評価の結果を報告するものとする。
２　さが地方創生人材育成・活用推進協議会長は，自己点検評価及び外部評価の結果を検証し，さが地方創生人材育成・活用推進協議会の運営及び諸活動の向上のために活用するものとする。
３　さが地方創生人材育成・活用推進協議会長は，自己点検評価及び外部評価の結果について公表するものとする。

（事務）
第６条　さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する事務は，国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

（雑則）
第７条　この規程に定めるもののほか，さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関し必要な事項は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が別に定める。

附　則
この規程は，平成２９年２月９日から施行する。

さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会に関する細則

（平成２９年２月９日制定）

（趣旨）

第１条　この細則は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程（平成２９年２月９日制定）第３条第２項の規定に基づき，さが地方創生人材育成・活用推進協議会に置くさが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会（以下「自己点検評価委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第２条　自己点検評価委員会は，次に掲げる事項を審議する。

(1) 自己点検評価の具体的な項目等の策定に関すること。

(2) 自己点検評価の実施内容及び方法に関すること。

(3) 自己点検評価報告書に関すること。

(4) その他自己点検評価に関すること。

（組織）

第３条　自己点検評価委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 地（知）の拠点大学による地方創生事業（以下「ＣＯＣ＋事業」という）実施責任者

(2) 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター副センター長

(3) 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター特任教員（ＣＯＣ＋事業コーディネーター）　２人

(4) 学校法人永原学園西九州大学（ＣＯＣ＋事業参加校）から選出された者　若干名

(5) 学校法人佐賀龍谷学園九州龍谷短期大学（ＣＯＣ＋事業参加校）から選出された者　１人

(6) 学校法人旭学園佐賀女子短期大学（ＣＯＣ＋事業参加校）から選出された者　１人

(7) さが地方創生人材育成・活用推進協議会から選出された者　１人

(8) その他さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が必要と認めた者　若干人

（任期）

第４条　前条第４号から第８号までの委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　自己点検評価委員会に，委員長を置き，前条第１号の委員をもって充てる。

２　委員長は自己点検評価委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（議事）

第６条　自己点検評価委員会は，委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

２　自己点検評価委員会の議事は，出席した委員の３分の２をもって決する。

（委員以外の者の出席）

第７条　自己点検評価委員会が必要と認めたときは，自己点検評価委員会に委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（事務）

第８条　自己点検評価委員会に関する事務は，国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

（雑則）

第９条　この細則に定めるもののほか，自己点検評価委員会に関し必要な事項は，自己点検評価委員会が別に定める。

附　則

１　この細則は，平成２９年２月９日から施行する。

２　この細則施行後，最初に選出される第３条第４号から第８号までの委員の任期は，第４条の規定にかかわらず，平成３０年３月３１日までとする。

さが地方創生人材育成・活用推進協議会外部評価委員会に関する細則

（平成２９年３月１０日制定）

（趣旨）
第１条　この細則は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程（平成２９年２月９日制定）第４条第２項の規定に基づき，さが地方創生人材育成・活用推進協議会に置くさが地方創生人材育成・活用推進協議会佐賀外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）
第２条　外部評価委員会は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会がまとめる自己点検評価の結果について検証を行う。

（組織）
第３条　外部評価委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。
(1) 地方創生を担う人材育成に関して学識を有する者　１人
(2) 学生のキャリア教育に関して学識を有する者　１人
(3) 地方創生を推進する地方公共団体の職員　１人
(4) 地域経済の振興や雇用の拡大に関して実務経験のある経済人　１人
(5) その他さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が必要と認めた者　若干人
２　前項第１号から第４号までの委員は，さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長が指名する。

（任期）
第４条　委員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）
第５条　外部評価委員会に，委員長を置き，委員の互選により定める。
２　委員長は外部評価委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（議事）
第６条　外部評価委員会は，委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
２　外部評価委員会の議事は，出席した委員の３分の２をもって決する。

（委員以外の者の出席）
第７条　外部評価委員会が必要と認めたときは，外部評価委員会に委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。

（事務）
第８条　外部評価委員会に関する事務は，国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

（雑則）
第９条　この細則に定めるもののほか，外部評価委員会に関し必要な事項は，外部評価委員会が別に定める。

附　則
１　この細則は，平成２９年３月１０日から施行する。
２　この細則施行の際，最初に選出される委員の任期は，第４条の規定にかかわらず，平成３０年３月３１日までとする。

◆　平成29年度さが地方創生人材育成・活用推進協議会　関係者名簿

【佐賀大学】

部　局	役　職	氏　名
佐賀大学 さが地方創生人材育成・活用推進協議会	学長 会長	宮　﨑　　耕　治
理事（研究・社会貢献担当） 地域創生推進センター	副学長 センター長	寺　本　　憲　功
理事（教育・学生担当） 地域創生推進センター	副学長 副センター長	兒　玉　　浩　明
全学教育機構 ＣＯＣ＋事業	教授 実施責任者	五　十　嵐　　勉
全学教育機構	講師	山　内　　一　祥
芸術地域デザイン学部	教授	山　下　　宗　利
教育学部 附属教育実践総合センター	准教授	石　井　　宏　祐
経済学部	准教授	戸　田　　順　一　郎
医学部	教授	堀　川　　悦　夫
工学系研究科 ＣＯＣ事業	教授 実施責任者	三　島　　伸　雄
工学系研究科	准教授	矢　田　　光　徳
農学部	教授	田　中　　宗　浩
キャリアセンター	准教授	森　田　　佐　知　子
地域創生推進センター（地方創生人材育成CN）	特任准教授	平　尾　　泰　博
地域創生推進センター（キャリアデザインCN）	特任講師	小　嶋　　紀　博

【西九州大学】

部　局	役　職	氏　名
西九州大学 地域連携センター	副学長 センター長	井　本　　浩　之
あすなろうセンター	コーディネーター	石　川　　聖　子
地域連携センター	事務	宮　﨑　　智　美

【九州龍谷短期大学】

部　局	役　職	氏　名
保育学科	教授	松　田　　祐　子
人間コミュニティ学科	准教授	宮　原　　正　広
九州龍谷短期大学	就職支援 コーディネーター	井　上　　省　吾

【佐賀女子短期大学】

部　局	役　職	氏　名
地域みらい学科 健康とホスピタリティコース	教授	夏　目　朋　之
地域みらい学科 福祉とソーシャルケアコース	准教授	永　柄　　真　澄
佐賀女子短期大学	コーディネーター	泉　　万　里　江

【幹事会】

部　局	役　職	氏　名
佐賀県 統括本部 さが創生推進課	課長	中　尾　　政　幸
佐賀市 企画調整部 企画政策課	課長	武　富　　将　志
みやき町 企画調整課	課長	弓　　博　文
佐賀県商工会議所連合会	事務局長	八　谷　　浩　司
認定特定非営利活動法人地球市民の会 一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所	理事 代表理事	大　野　　博　之

平成29年度
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業
さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

成果報告書

平成30年3月30日発行

発行　国立大学法人　佐賀大学
学務部教務課
840-8502　佐賀県佐賀市本庄町1番地
TEL： 0952-28-8163
FAX： 0952-28-8170
ＨＰ： http://cocplus.saga-u.ac.jp/
企画・編集　佐賀大学　地域創生推進センター
デザイン・印刷　福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写、複製を禁止します。

文部科学省 地(知)の拠点

COC+大学

国立大学法人　佐賀大学

〒840-8502 佐賀市本庄町1
TEL 0952-28-8113
FAX 0952-28-8118
http://www.saga-u.ac.jp/
E-mail.sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp

COC+参加校

学校法人 佐賀龍谷学園
九州龍谷短期大学

〒841-0072　佐賀県鳥栖市村田町岩井手1350
TEL 0942-85-1121
FAX 0942-82-8411
http://www.k-ryukoku.ac.jp/

COC+参加校

学校法人 旭学園
佐賀女子短期大学

〒840-8550 佐賀県佐賀市本庄町本庄1313
TEL 0952-23-5145(代表)
FAX 0952-23-2724
http://www.asahigakuen.ac.jp/sajotan/

文部科学省 地(知)の拠点

COC+参加校

学校法人 永原学園
西九州大学

〒842-8585　佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9
TEL 0952-37-6289(地域連携センター)
FAX 0952-52-4194
http://www.nisikyu-u.ac.jp/nagahara/

COC+参加校

学校法人 永原学園
西九州大学短期大学部

〒840-0806　佐賀県佐賀市神園3-18-15
TEL 0952-37-6289(地域連携センター)
FAX 0952-52-4194
http://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/

国立大学法人 佐賀大学　地域創生推進センター

〒840-8502　佐賀市本庄町1番地
TEL　0952-28-8998　FAX　0952-28-8998（地域創生推進センター）
TEL　0952-28-8958　FAX　0952-28-8186（学術研究協力部社会連携課）
TEL　0952-28-8163　FAX　0952-28-8170（学務部教務課）

COC+ HP　COC+ FB